

心理学部

20周年記念誌

これまでとこれから

2002年 — 2022年



こ
こ
ろ
の
ふ
し
ぎ





立正大学心理学部20周年記念誌

これまでとこれから 2002年 — 2022年

立正大学心理学部 20周年を迎えるにあたって

心理学部長 上瀬由美子 2

20周年に寄せて

心理学部と共に歩んだ20年 4

心理学研究科長 西松 能子

心理学研究所長 所 正文

心理臨床センター長 沼 初枝

20年の歩み

心理学部小史 6

略年譜 10

設置科目の変遷 14

教員の変遷 26

2021年度教員組織 28

歴代心理学部長のことば

心理学部開始前の思い出 32

初代心理学部長 楡木 満生

心理学部開設時前後を思い起こすと、 34

第2代心理学部長 齊藤 勇

この10年を振り返って 36

第3代心理学部長 古屋 健

心理学部の思い出

卒業生座談会 40

卒業生からのメッセージ 50

社会とのつながり

講演会・イベント・公開講座 58

卒業生の進路 62



これまでとこれから
2002年—2022年

心理学の学びを通して 他者とともに よりよい社会を作っていく

心理学部長 上瀬 由美子

2002(平成14)年4月、立正大学心理学部は立正大学の8番目の学部としてスタートしました。開設から20年を経過し、心理学部で学んだ卒業生は2022(令和4)年3月までに延べ4,493人になりました。心理学部の学びが目指すものは「他者とともによりよい社会を作っていくこと」です。これは大学全体の教育理念に沿う

ものであると同時に、心の諸問題を解決する学部であるという2002(平成14)年開設時からのアイデンティティでもあります。

心理学のルーツは哲学に求められますが、立正大学心理学部もまた文学部哲学科の「心理学コース」が独立する形で誕生しています。開設時の21世紀初頭は、

立正大学心理学部20周年を迎えるにあたって

日本において人々の関心が社会状況の変化から生じる心の問題に強く向かう時期でした。学校教育現場で様々な問題が生じたことから文部科学省はスクールカウンセラー(臨床心理士)の増員を希望し、産業界は職場の心の問題に対応できる専門家の育成を求めています。折しも立正大学全体で学部改革の機運が高まった時期で、心理学部が新たに誕生することになりました。当時、日本で単独の学部として心理学部を置いていた大学は名古屋に1校あるのみで、首都圏の大学で心理学部を開設したのは、立正大学が初めてでした。当時の吉田榮夫学長は新学部の開設に寄せた言葉の中で、心理学部の役割を“21世紀の人類にとって大きな課題である「心」の問題の研究と教育に挑戦すること”と位置付け、日本と世界の心の諸問題解決に貢献することを強く期待すると述べておられます(立正大学心理学部研究紀要 創刊号より)。

心理学部は当初は臨床心理士やカウンセラーを養成することを念頭に、臨床心理学科単科で開設しました。教員は従来の立正大学文学部から13名、2002(平成14)年4月に新規に採用された8名から成るスタートでした。その後2011(平成23)年には、人の心が社会から影響を受けるしくみ、社会問題や集団関係の背景にある心理も理解したいというニーズを受けて、対人・社会心理学科が開設されました。現在、心理学部の専任教員は両学科合わせて36名で構成されています。また、心理職の国家資格である公認心理師制度がスタート(2017年施行)したこと、心理学部のカリキュラムもこれに対応する形で発展を続けています。2021(令和3)年度末には公認心理師資格取得をめざす最初の学部卒業生が誕生します。

心理学部では開設以来、質の高い教育を学生に提供するように努めてきました。専門的知識を得るだけでなく、実践的な授業を通して、様々な立場の人に共感し理解しようとする姿勢やコミュニケーションの技術など、学生たちが大学卒業後に社会で活躍するために不可欠な力を身につけることができるよう、カリキュラムが工夫されています。

このような実践的な学びを重視する本学部において、2019(令和元)年度後半から世界中で脅威となった新型コロナウイルス感染症の影響は、誠に大きなものとなりました。立正大学でも2019(令和元)年度の卒業式と2020(令和2)年度4月の入学式は中止となり、2020(令和2)年度は新学期授業がひと月半遅れで、しかも全てオンラインで開始される事態となりました。2020(令和2)年度2期になって演習など一部の授業で対面授業が行われ、2022(令和4)年度1期から、ようやく全面的な対面授業が再開される形となりました。まだ先の見えない不安は続いていますが、このような中であっても教員と職員が工夫をこらし、教育の質を保つよう時間と労力を注いでいます。

地球環境の変化や社会技術・構造の変化は、私たちの心にも大きな影響を与えています。心を理解し、心の側面から問題解決の方向を示すことが以前にも増して求められています。社会でその役割を担っていく学生たちの成長を支えるためにも、心理学部はこれまで以上に確かな教育を続けていく必要があります。

本記念誌には、初代学部長の楡木先生が2009(平成21)年度にお書きになった「思い出の記」を再録いたしました。また、近年学部長を務められた齊藤先生・古屋先生の文章が寄せられ、編集担当の先生方および心理学部事務室のご努力により、立正大学心理学部のこれまでをまとめた資料が付されています。資料とともに歴史をふりかえると、この変動の激しい時代の中で、心理学部は常に学生をみつめ、時代にあった教育が行われるようカリキュラムや運営を発展させていったことがわかります。礎を築いて下さった諸先生と関係者の皆様、そしてキャンパスで学び巣立っていった学生たちとそれを支えた保護者の方々に、深く感謝申し上げます。本記念誌が、心理学部のこれまでの歴史の一端を示すとともに、心理学部がいつそう大きく飛躍することを祈念いたします。



これまでとこれから 2002年—2022年

心理学部と共に歩んだ20年



心理学研究科 研究科長

西松 能子

心理学部と共に歩む心理学研究科

立正大学大学院心理学研究科は、本学文学研究科哲学専攻を母胎とし、心理学部開設から2年後の2004(平成16)年に心理学研究科として開設された。以来、心理学領域に多くの人財を輩出し、社会に貢献してきた。文学部から独立し、関東圏初めての心理学部開設時には、研究科はなお文学研究科に籍を置いていた。2年後、研究科が開設された時には臨床心理学専攻と応用心理学専攻、心理学専攻が設置され、その後2011(平成23)年には対人・社会心理学科の開設に伴い、研究科にも対人・社会心理学専攻が加わった。

現在、研究科は修士課程の臨床心理学専攻、応用心理学専攻、対人・社会心理学専攻の3専攻と、博士後期課程の心理学専攻から構成されている。各々の専攻がそれぞれの領域の特徴を競い、また次の世代のよりよい編成を模索している。コロナ禍の社会における劇的な構造変化は、第4次産業革命とも呼ばれ、対人感情サービスの領域がヒトに残された領域として、従来に増して重要な役割となっている。

これからも心理学部と共に、より学生にとって望ましい心理学研究科となるべく努力していきたい。



心理学研究所 所長

所 正文

心理学研究所の発足理念—現在—将来展望

心理学部開設と同時に発足した当研究所は、心理学に関する幅広い研究調査、技術開発に関する社会貢献活動を、20年間にわたって行ってきた。

主な活動領域は、臨床心理学、知覚・認知心理学、学習・言語心理学、感情・人格心理学、神経・生理心理学、社会・集団・家族心理学、発達心理学、障害者・障害児心理学、健康・医療心理学、福祉心理学、教育・学校心理学、司法・犯罪心理学、産業・組織心理学、精神医学、実験社会心理学、対人・社会心理学、交通心理学、進化心理学、動物心理学、教育学となる。

研究発表会が、毎年4～5回行われ、大学院生まで参加を呼び掛け、研究成果を広く共有することを重視している。機関誌『心理学研究所紀要』は年1回発行され、学部と連携した公開講座も随時開催されている。

発足当初の理念「社会の心理的諸問題に積極的に取り組む〈心理学研究所〉」は、今後も変わらない。そして、「人々の価値観が多様化し、同一の事実に対して、異なる感じ方、考え方をすることも珍しくない。それによって、心的葛藤が生じ、ストレスが心身の健康をむしろむしむ」という21世紀の社会病理に対して、今後も当研究所は問題意識を持ち続けていく。



心理臨床センター センター長

沼 初枝

心理学部と同時に誕生した心理臨床センター

2002(平成14)年関東圏初めての心理学部開設という画期的な出発と同時に、心理臨床センター(以下センターと略)も地域に開かれたカウンセリングセンターとして歩みを始めた。また心理学研究科臨床心理学専攻は臨床心理士養成のための一種指定校であり、センターは院生の臨床実習機関として大きな希望と責任を担ってきた。多くの心理学部卒業生が臨床心理の専門家を目指して大学院に進学し、センターで臨床実践を積み、今や200名近い修士生が巣立っている。さらに在学中のみならず、彼らが臨床に悩み迷ったときの古巣として、卒後教育を提供する場としてもセンターは機能している。

ちなみに筆者は、心理学部・心理学研究科・センターの基礎地盤が固められた2005(平成17)年に立正大学心理学部に入職した。弱冠二十歳前の学部ゼミ生が、院に進学しセンター実習に戸惑いながらも、社会で活躍する心理臨床家に育っていく成長過程を頼もしく眺めてきた。心理学部や心理学研究科が歩んできた20年を共にセンターが迎えられるのは、臨床教員(センター長)冥利に尽きるとしか言いようがない。



大学院学位授与式(2017年度)



立正大学心理学研究所研究発表会(2015年度)



心理臨床センター事例検討会(2019年度)



これまでとこれから 2002年—2022年

立正大学は2022(令和4)年度に創設150周年を迎える。「真実」・「正義」・「和平」を求める建学精神の基に、8番目の学部として2002(平成14)年に心理学部が開設された。

当時、高度情報化、グローバル化、少子高齢化などの急激な社会変化に伴い、職場のメンタルヘルス問題、不登校、いじめ、高い自殺率をはじめとする様々な心理的問題が浮き彫りとなっていた。これらの諸問題を解決する施策として文部省(当時)は、小・中・高等学校にスクールカウンセラーの配置を行い、厚生労働省では臨床心理技術者の国家資格を検討する委員会を発足させるなど、心理的支援の専門家の養成と心理臨床実践の拡大が急務であった。このような時代のニーズに対応すべく、臨床心理学単科として心理学部が設置された。

心理学部臨床心理学科の開設と発展

立正大学文学部哲学科に設置されていた心理学コースが発展的に解消され、特にスクールカウンセラーの養成を目的とした新学部設置準備室が2000(平成12)年に開設された。翌年4月に文部科学省に設置認可申請を行い、認可通知を12月に受けている。認可申請書

には、「現代的状況に対応できる人材を養成するために、またこれからの社会人として必要な高度な教養として臨床心理学的知見を身につけた人材を養成することを目的とするものである。また、学部規模の組織とすることによって、臨床心理学の専門領域を網羅し、わが国における臨床心理学研究の中核的機関を目指す」と明記されている。2002(平成14)年4月に昼間主コース150名、夜間主コース100名とする定員250名の心理学部臨床心理学科が開設された。首都圏の大学では最初の心理学部開設であり、スケールメリットを生かすことの可能な臨床心理学科単科の学部となった。

臨床心理学科の発足と同時に、臨床教育・実習・研究の場として、また地域に開かれた心の相談機関として社会貢献及び地域連携の役割を担った立正大学カウンセリングセンター(現在「心理臨床センター」)が設置された。また同年、心理学部教員の研究助成及び研究成果の発信の場としての機能をもつ心理学研究所が発足した。

開設年度末には、「立正大学心理学部研究紀要」(現在「立正大学心理学研究年報」)、「立正大学臨床心理学研究」・「立正大学心理学研究所紀要」が発行され、いずれもこれまでに継続的に刊行されている。



心理学部開設記念シンポジウムの
講師 河合隼雄文化庁長官(当時)を囲んで(2002年1月)



心理臨床センタープレイルーム
(旧立正大学カウンセリングセンター)



新入生歓迎オリエンテーション
(写真は2018年度)



ミンダナオ国際大学(フィリピン)との友好交流協定に基づき、インターネットを利用した双方向授業を開始(2011年度より)

20年の歩み

立正大学心理学部小史

心理学専攻においては、専門的理論と実践的方法論を修得するカリキュラムを編成し、独創的・開拓的な研究を行うことのできる研究者・実践者の育成を行なってきた。

臨床心理学科は、入試制度の改正や入試状況の検証を踏まえ、2010(平成22)年には昼間主コース(定員250名)への一元化を図り、コース別募集を廃止した。

変化する社会的ニーズに応えるため、2011(平成23)年4月に対人・社会心理学科(定員100名)を新設し、臨床心理学科(定員150名)との2学科制に移行した。

臨床心理学科のカリキュラムの変遷

保健医療、産業、福祉などの、従来からあるスクールカウンセラーとは異なる多様な領域においても心理的援助の専門家・職業人へのニーズが高まった社会的変化に対応するため、対人・社会心理学科開設と同年となる2011(平成23)年度入学生より、大幅なカリキュラム改正を行なっている。幅広く社会に貢献できる職業人・心理的援助者となるために必要な知識・態度・技能を身につけることを教育の目標として定め、卒業基準単位の見直しを行い、専門的な選択科目については「臨



立正大学心理学部小史

床実践につながる心理学」・「社会科学としての心理学」・「人間科学としての心理学」・「心理学をより深く理解する」科目として再配置を行なった。

2015(平成27)年に公認心理師法が成立し、心理専門職初の国家資格が誕生した。心理に関する支援を要する者への援助、心の健康に関する知識の教育や情報提供などのより高度な専門性が期待されている社会状況の中、新制度に応えるべく新カリキュラムの検討を行なった。公認心理師資格取得に必要となる科目を配置するため、科目の名称変更や統廃合、授業目標や扱う内容の見直しなどを行ない、2018(平成30)年度入学生より公認心理師対応科目を配置した新カリキュラムが適用された。

現在臨床心理学科は、「臨床心理学の知識・技能を活かして、心理的援助を必要とする人を理解し、適切なケアを実践できる職業人・心理的援助者を養成すること」を目的として、専門科目を体系的に学べるように「心理学的理論」・「臨床心理学・カウンセリング」・「アカデミックスキル」・「心を理解する」・「心に働きかける」という5領域でカリキュラムを編成している。

対人・社会心理学科の開設と発展

臨床心理学科が開設されて10年が経過した当時、日本社会は大きく変化し、それまでにはみられなかった新たな問題が生じてきていた。例えば、晩婚化、少子化、高齢化は、夫婦関係や親子関係など家庭の中での人間関係に大きな変化をもたらし、個人の恋愛観や結婚観、そして家族観やライフスタイルにも大きな影響を与えた。また、終身雇用制の崩壊や雇用不安、グローバリゼーションや能力開発など、職場環境や労働環境が大きく変化し、職業観や勤労への考え方も大幅に揺らいでいる社会的状況にもあったといえる。

社会が大きく変化する中で、心理学に対する社会的ニーズも多様化した。社会の幅広い分野において求められるのは、(1)身近な人間関係から組織における人間行動、さらには経済的・政治的な行動まで、幅広い社会的行動や社会的活動について科学的な視点からその実態を正しく把握する技能を備えた人材、(2)その背景にあって人々を動かしている多様な心情や価値観に関する専門的知識と深い洞察力を備えた人材、(3)その専門的知識と技能を生かして問題を解明・解決することで社会人・組織人として社会に貢献しようという意欲を持った人材の育成である。

心理学に対するこのようなニーズに応えるためには、心理学部の中に個人と社会との関係に目を向けた新たな学科を設ける必要があり、2011(平成23)年4月より対人・社会心理学科が新設された。

学科の開設に伴い、2012(平成24)年4月より、心理学研究科修士課程に新たに対人・社会心理学専攻が設置された。対人・社会心理学専攻は、社会変化と共に複雑となる人間関係、また集団や社会と個人の関係など、身近な人間関係から組織における人間行動、さらには経済的・政治的な行動まで、幅広い社会的行動や社会的活動に対して、実証的・科学的にアプローチする技能と対人・社会心理学の高度かつ専門的な知識を修得し、その技能・知識を生かして現実社会の諸問題を深く理解する高度な専門家を養成することを目的としている。

対人・社会心理学科のカリキュラムの変遷

対人・社会心理学科では「対人・社会心理学の知識・技能を活かして、社会の現実的諸問題を解決し、よりよい社会の構築に貢献できる職業人の育成」を目的として、専門科目を「自己」・「対人」・「集団」・「文化」の4領

域に、心理学の「基礎・応用領域」と「スキル系領域」を加えた6領域よりカリキュラムが構成されている。

2015(平成27)年に公認心理師法の成立を受け、公認心理師資格取得を目指す学生への対応が可能となるよう、科目の名称変更や統廃合、授業目標や扱う内容の見直しなどを行ない、2018(平成30)年度入学生より新カリキュラムが適用された。

20周年を迎えて

立正大学心理学部は、150年の伝統ある立正大学を支える一つの礎となり、臨床心理学科と対人・社会心理学科の2学科を両輪として今後さらに発展し、社会に貢献できる人材を養成していくことが期待される。



対人・社会心理学科開設
(2011年度)



心理学部開設10周年記念式典
(2011年度)



東京未来大学モチベーション研究所と
学術研究に関する協定を締結(2012年度)



対人・社会心理学科社会心理調査実習発表会
(写真は2016年度)



これまでとこれから 2002年—2022年

20年の歩み

略年譜

～開設まで～

- 2000 6月** 大学改組準備室設置(改組概要に『臨床心理学部』設置)
- 7月** 「大学改組・新学部設置準備委員会」発足
- 10月** 準備委員会を「大学改組・新学部設置実行委員会」に改称
- 2001 4月** 実行委員会を『臨床心理学部設置準備室』に改称
『立正大学臨床心理学部設置認可申請書』を文部科学省に提出
- 7月** 文部科学省からの指摘により「臨床心理学部」から「心理学部」に名称変更
準備室を『心理学部設置準備室』に改称
- 12月** 「心理学部臨床心理学科」設置の認可通知を受ける
- 2002 1月** 初の入学試験(公募制推薦・社会人入試)実施
(公募制推薦志願者:昼間主356名、夜間主35名)(社会人入試志願者:昼間主51名、夜間主112名)
心理学部開設記念シンポジウムを開催
基調講演に河合隼雄文化庁長官・日本臨床心理士会会長が講演(聴衆2500名超)
- 2月・3月** 初の一般入学試験実施(志願者数:昼間主1743名、夜間主365名)

～心理学部開設～

- 4月** 心理学部開設(「臨床心理学科」定員昼間主150名・夜間主100名)
初代学部長に楡木満生教授が就任(専任教員21名)
第1期生283名が入学し、新入生オリエンテーション開催(以後、毎年開催)
第1回教授会を熊谷キャンパスにて開催
『心理学部設置準備室』を『心理学部事務室』に改称
「立正大学カウンセリングセンター」(現「心理臨床センター」初代センター長 松原達哉教授)発足
「心理学研究所」(初代所長 井上隆二教授)発足
4号館地下1階、心理学実験・実習関連施設「心理学実験室A」「心理学実験室B」「心理学実習準備室」「心理学実験実習室」「行動観察室」「プレイルーム」を心理学部の施設として使用開始(主に実験・実習に使用)
- 2003 3月** 「立正大学心理学部研究紀要創刊号」発行(以降「第7号」まで発行)
「立正大学心理学研究所紀要創刊号」発行(以後、毎年発行)
- 7月** 自己表現能力トレーニング講座をはじめとした学部独自の各種講座を実施
- 10月** 第1回公開講座「大人・親・子どものこころの問題を考える…」開催 (品川区教育委員会後援 合計4回の講座を278名が受講)

- 2004 1月** 学部主催講演会(学生企画講演会)「家族支援における『ことば』の考え方」(東北大学 長谷川啓三教授)開催
- 4月** 大学院「心理学研究科」設立(初代研究科長 山下富美代教授)
臨床心理学専攻、応用心理学専攻(いずれも修士課程、定員10名)
心理学専攻(博士後期課程、定員4名)
- 10月** 公開講座「現代人のこころの問題を考える」開催
(品川区教育委員会との共催 合計3回を738名が受講、初回W.グラッサー博士の講演は563名が受講)
- 2005 11月** 公開講座「子育て・介護支援への多面的アプローチ—生涯発達支援の心理学—」開催
(品川区教育委員会との共催 合計3回の講座を215名が受講)
- 2006 3月** 心理学部初の卒業式・卒業祝賀会 卒業生(第1期生) 235名を送り出す
- 4月** 学生企画講演会「犯罪被害者の心理と支援について」(宮城県警察本部警務部・浅野晴哉氏)開催
- 10月** 在学生向け「進路ガイダンス」を開催(以後、毎年開催)
公開講座「子どもの発達と特別支援教育を考える」開催
(品川区教育委員会との共催 合計4回の講座を573名が受講)
- 2007 4月** 熊谷キャンパス旧体育館での最後の入学式
- 10月** 公開講座「メンタルヘルスを支援する心理療法への誘い」開催
(品川区教育委員会との共催 合計3回の講座を765名が受講)
- 11月** 心理学部同窓会 第1回「ホームカミングデー」開催
- 12月** 学生企画講演会「すべての子どもが輝く教育」(教育ジャーナリスト・品川裕香氏)開催
- 2008 4月** 第2代学部長に齊藤勇教授就任
入学式は熊谷キャンパスリニューアルのため「くまがやドーム」で開催
- 10月** 公開講座「家庭・学校・職場で活かすカウンセリング」開催
(品川区教育委員会との共催 合計3回の講座を294名が受講)
- 2009 7月** 大崎西口商店会と地域連携スタート
韓国・翰林大学と国際交流協定締結
- 10月** 公開講座「こころの時代に活かせる支援」開催 (品川区との共催 合計3回の講座を252名が受講)



これまでとこれから 2002年—2022年

20年の歩み

略年譜

- 2010** **3月** 「立正大学心理学部研究紀要」と「立正大学大学院心理学研究科研究紀要」を統合し「立正大学心理学研究年報」創刊号発行
- 4月** 臨床心理学科の定員を昼間主250名に一元化し、夜間主廃止
熊谷キャンパスリニューアル後初の入学式
- 8月** フィリピン・ミンダナオ国際大学と友好交流協定締結
- 10月** 公開講座「地域・暮らし・家庭の人間関係を考える」を開催
(品川区との共催 合計3回の講座を239名が受講)
- 2011** **4月** 対人・社会心理学科(定員100名)設置(第1期生118名入学) それに伴い「臨床心理学科」の定員は150名に変更
- 5月** 東日本大震災の影響により、5月より新学期を開始
- 10月** 公開講座「現代社会における人と人とのつながりとこころの支援」開催
(品川区との共催 合計3回の講座を150名が受講)
設立10周年記念行事開催
設立10周年記念式典(五反田「ゆうぼうと」重陽の間にて 69名が参列)
講演「心理臨床における動作のこころ—その意義と援助の実際—」(239名が受講)
コンサート「いやしのコンサート」(239名が参加)
- 2012** **4月** 心理学研究科に「対人・社会心理学専攻」(修士課程、定員5名)設置
- 10月** 公開講座「社会と自分をみつめる心理学—信じるこころとこころの声—」開催
(品川区との共催 合計2回の講座を185名が受講)
- 12月** 本学心理学研究所と東洋大学21世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチセンターおよび東京未来大学モチベーション研究所と学術・研究に関する協定を結ぶ
- 2013** **10月** 公開講座「現代をポジティブに生きる心理学」開催 (品川区との共催 合計2回の講座を183名が受講)
- 12月** 対人・社会心理学科「社会心理調査実習発表会」開催(以後、毎年開催)
- 2014** **4月** 第3代学部長に古屋健教授就任
新たに8号館4階に「社会心理調査実習室」「心理学集団実験室」「対人心理実験室A」「対人心理実験室B」が設置され、運用を開始する
- 10月** 公開講座「“きずな”の心理学—助け合いとこころの幸福—」開催
(品川区との共催 合計2回の講座を127名が受講)
- 2015** **3月** 対人・社会心理学科第1期生(108名)卒業
- 9月** 国会にて公認心理師法可決
- 10月** 公開講座「生活の場での消費者心理学」開催 (品川区との共催 合計2回の講座を119名が受講)

- 2016** **9月** 高校生向け公開講座「こころの不思議を体験しよう!」開催 (26名が受講)
- 10月** 公開講座「魅かれあうこころの不思議—愛と愛でないもの—」開催
(品川区との共催 合計2回の講座を143名が受講)
- 11月** 心理学部ホームカミングデー開催(THE LANDMARK SQUARE TOKYOにて)
心理学部開設15周年記念特別講演会「立正大学の心理臨床15年—社会貢献のこころを育む—」を開催
心理学部開設15周年記念パーティー開催
心理学部進路ガイダンス「SHINRI cafe」在校生と卒業生の親睦会 開催
- 2017** **9月** 公認心理師法施行、公認心理師法施行規則等が公表される
- 10月** 公開講座「これからのメンタルヘルス」開催 (品川区との共催 103名が受講)
- 2018** **4月** 大学における公認心理師となるために必要な科目に対応したカリキュラムに変更(臨床心理学科、対人・社会心理学科)
臨床心理学科の定員を150名から170名に変更
対人・社会心理学科の定員を100名から115名に変更
- 9月** 第1回公認心理師試験
- 10月** 公開講座「ストレスとの付き合い方」開催 (品川区との共催 142名が受講)
- 2019** **10月** 公開講座「愛と正義と暴力と～過激主義の社会心理学～」開催 (品川区との共催 103名が受講)
- 2020** **4月** 第4代学部長に上瀬由美子教授就任
- 5月** 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、1期をオンライン授業により開始
- 9月** オンライン授業と対面授業により2期授業を開始
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、公開講座を中止
- 2021** **4月** 新型コロナウイルス感染拡大状況に鑑み、オンライン授業と対面授業により授業を開始
- 5月** 立正大学心理学部心理学検定資格取得支援制度の運用を開始
- 10月** 公開講座「コロナ禍のメンタルヘルスを考える—心的トラウマとしてのコロナ—」をオンラインにて開催(品川区との共催 152名が受講)



設置科目の変遷

臨床心理学科
2002～2021年度

各年度の学則に基づいて、区分変更を伴うカリキュラム改正ごとに2002～2010年度、2011～2014年度、2015～2021年度に分割して掲載

教養的科目
2002年度～2014年度設置科目

区分	授業科目名	設置(学則に記載された)年度					
		2002	2009	2010	2011	2013	2014
一般教育科目	(全学共通科目)						
	必修科目 学修の基礎Ⅰ		2009				
	学修の基礎Ⅱ						
	仏教入門						
	仏教と人間						
	哲学入門						
	哲学概論						
	歴史と文化						
	歴史と世界						
	文学入門						
	文学の世界						
	法学入門						
	法律学概説						
	政治学概説						
	現代日本の政治と社会						
	経済学概説						
	経済学と社会						
外国語科目	選択科目 統計学序説						
	統計学概説						
	社会学概説						
	社会学の基礎						
	数学の世界						
	環境科学						
	進化生物学とは何か						
	進化生物学の世界						
	心理学						
	心理学理論と心理的支援						
	教養基礎						
	教養総合						
	情報処理の基礎						
	キャリア開発基礎講座Ⅰ						
	海外留学						
	ドイツの文化とことば						
	フランスの文化とことば						
	中国の文化とことば						
	コリアの文化とことば						
学部留学生科目	必修科目 English ReadingⅠ						
	English ReadingⅡ						
	English WritingⅠ						
	English WritingⅡ						
	Engsih SpeakingⅠ						
	Engsih SpeakingⅡ						
	Practical EnglishⅠ						
	Practical EnglishⅡ						
	Advanced EnglishⅠ						
	Advanced EnglishⅡ						
	選択科目 ドイツ語Ⅰ						
	ドイツ語Ⅱ						
	フランス語Ⅰ						
	フランス語Ⅱ						
	中国語Ⅰ						
	中国語Ⅱ						
	ハングルⅠ						
	日本語Ⅰ(留学生用)						
	英語Ⅳ						
保健体育科目	Advanced English						
	ドイツ語Ⅱ						
	フランス語Ⅱ						
	中国語Ⅱ						
	ハングルⅡ						
	日本語Ⅱ(留学生用)						
	体育実技						
	体育講義						
	選択科目						

教養的科目
2015年度～設置科目

区分	授業科目名	設置(学則に記載された)年度 2015～
一般教育科目	(全学共通科目)	
	必修科目 学修の基礎Ⅰ	
	学修の基礎Ⅱ	
	仏教入門	
	仏教と人間	
	哲学入門	
	哲学概論	
	歴史と文化	
	歴史と世界	
	文学入門	
	文学の世界	
	法学入門	
	法律学概説	
	政治学概説	
	現代日本の政治と社会	
	経済学概説	
	経済学と社会	
	統計学序説	
外国語科目	選択科目 統計学概説	
	社会学概説	
	社会学の基礎	
	数学の世界	
	環境科学	
	進化生物学とは何か	
	進化生物学の世界	
	心理学	
	心理学理論と心理的支援	
	教養基礎	
	教養総合	
	情報処理の基礎	
	キャリア開発基礎講座Ⅰ	
	海外留学	
	ドイツの文化とことば	
	フランスの文化とことば	
	中国の文化とことば	
	コリアの文化とことば	
学部留学生科目	必修科目 English ReadingⅠ	
	English ReadingⅡ	
	English WritingⅠ	
	English WritingⅡ	
	Engsih SpeakingⅠ	
	Engsih SpeakingⅡ	
	Practical EnglishⅠ	
	Practical EnglishⅡ	
	Advanced EnglishⅠ	
	Advanced EnglishⅡ	
	選択科目 ドイツ語Ⅰ	
	ドイツ語Ⅱ	
	フランス語Ⅰ	
	フランス語Ⅱ	
	中国語Ⅰ	
	中国語Ⅱ	
	日本語Ⅰ	
	日本語Ⅱ	
	日本語Ⅲ	
保健体育科目	選択科目 日本語Ⅳ	
	体育実技	
	体育講義	

専門科目
2002年度～2010年度設置科目

区分	授業科目名	設置(学則に記載された)年度									
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	
必修科目	心理学史	2002									
	心理学概論	2002									
	教育学概論					2006					
	教育学概論1	2002			2005						
	教育学概論2	2002			2005						
	教育職の研究					2006					
	心理学基礎演習1	2002									
	心理学基礎演習2	2002									
	臨床心理学概論1	2002									
	臨床心理学概論2	2002									
	卒業研究・卒業論文	2002									
選択必修科目Ⅰ	心理統計法1	2002									
	心理統計法2	2002									
	心理学測定法1	2002									
	心理学測定法2	2002									
	臨床心理学基礎実験1	2002					2007				
	臨床心理学基礎実験2	2002					2007				
	心理学基礎実験1					2006					
	心理学基礎実験2					2006					
	心理学情報処理1	2002									
	心理学情報処理2	2002									
	心理学アセスメント1	2002									
	心理学アセスメント2	2002									
	心理療法1	2002									
	心理療法2	2002									
	カウンセリング1	2002									
	カウンセリング2	2002									
	臨床心理学研究1	2002									
	臨床心理学研究2	2002									
選択必修科目Ⅱ	学校臨床心理学研究1	2002									
	学校臨床心理学研究2	2002									
	教育心理学研究1	2002									
	教育心理学研究2	2002									
	行動心理学研究1	2002									
	行動心理学研究2	2002									
	社会心理学研究1	2002									
	社会心理学研究2	2002									
	対人心理学研究1								2010		
	対人心理学研究2								2010		
	臨床心理学演習1	2002									
	臨床心理学演習2	2002									
	臨床心理学演習3	2002									
	臨床心理学演習4	2002									
	臨床心理学演習5	2002									
	臨床心理学演習6	2002									
	教育心理学演習1	2002									
	教育心理学演習2	2002									
	学校教育心理学演習1	2002									
	学校教育心理学演習2	2002									
選択必修科目Ⅲ	行動心理学演習1	2002									
	行動心理学演習2	2002									
	対人心理学演習1	2002									
	対人心理学演習2	2002									
	社会心理学演習1	2002									
	社会心理学演習2	2002									
	比較文化演習1						2007				
	比較文化演習2						2007				



設置科目の変遷

これまでとこれから
2002年—2022年

区分	授業科目名	設置(学則に記載された)年度								
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
専門科目 2002年度～2010年度設置科目	臨床心理学実習1	2002								
	臨床心理学実習2	2002								
	臨床心理学実験1							2008		
	臨床心理学実験2							2008		
	生涯学習概論1	2002								
	生涯学習概論2	2002								
	教育評価・測定法1	2002								
	教育評価・測定法2	2002								
	教育史1	2002								
	教育史2	2002								
	学校経営論1	2002								
	学校経営論2	2002								
	教育方法論1	2002								
	教育方法論2	2002								
	人間関係の心理学1	2002								
	人間関係の心理学2	2002								
	社会心理学1	2002								
	社会心理学2	2002								
	コミュニケーションの心理学1									2010
	コミュニケーションの心理学2									2010
	ステレオタイプの心理学1									2010
	ステレオタイプの心理学2									2010
	家族心理学1	2002								
	家族心理学2	2002								
	コミュニティ心理学1							2008		
	コミュニティ心理学2							2008		
	発達社会心理学1									2010
	発達社会心理学2									2010
	消費者行動の心理学1									2010
	消費者行動の心理学2									2010
	社会的貢献の心理学1									2010
	社会的貢献の心理学2									2010
	産業・組織心理学1	2002								
	産業・組織心理学2	2002								
	認知心理学1	2002								
	認知心理学2	2002								
	学習の心理1	2002								
	学習の心理2	2002								
	教育心理学1	2002								
	教育心理学2	2002								
	人格心理学1	2002								
	人格心理学2	2002								
	発達心理学1	2002								
	発達心理学2	2002								
	感覚・知覚心理学1							2008		
	感覚・知覚心理学2							2008		
	生理心理学1	2002								
	生理心理学2	2002								
	障害児心理学1	2002								
	障害児心理学2	2002								
	精神医学1	2002								
	精神医学2	2002								
	生徒指導論1	2002								
	生徒指導論2	2002								
	精神医学診断1	2002								
	精神医学診断2	2002								
選択科目Ⅰ										
選択科目Ⅱ										

区分	授業科目名	設置(学則に記載された)年度								
		2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
専門科目 2002年度～2010年度設置科目	心身医学1	2002								
	心身医学2	2002								
	英語原書講読1							2008		
	英語原書講読2							2008		
	学術論文作成法1							2008		
	学術論文作成法2							2008		
	現代論理学1	2002								
	現代論理学2	2002								
	現代科学論	2002								
	社会思想の展開1	2002								
	社会思想の展開2	2002								
	映像文化論	2002								
	キリスト教思想1	2002								
	キリスト教思想2	2002								
	東洋思想史1	2002								
	東洋思想史2	2002								
	文学概論1	2002								
	文学概論2	2002								
	言語学概論1	2002								
	言語学概論2	2002								
	マス・コミュニケーション文化研究	2002								
	映像文化研究	2002								
	比較文化1	2002								
	比較文化2	2002								
	児童文学1	2002								
	児童文学2	2002								
	翻訳入門	2002								
	文化記号論	2002								
	文学とギリシア・ローマ神話	2002								
	文学と聖書	2002								
	特別活動の研究	2002								
	教育法学	2002								
	道德教育の研究	2002								
	教職演習	2002								
	教育実践の研究	2002								
	公民教育論	2002							2009	
	社会科教育論						2007		2009	
	社会科教育論Ⅰ									2010
	社会科教育論Ⅱ									2010
	社会科・公民教育論					2006			2009	
	社会科・地理歴史教育論					2006				
	教育社会学	2002								
	教職特講	2002								
	教育実習Ⅰ							2008		
	教育実習Ⅱ	2002								
	教職実践演習(中・高)									2010
	青年心理学	2002								
選択科目Ⅰ										
選択科目Ⅱ										



設置科目の変遷

区分	授業科目名	設置(学則に記載された)年度			
		2011	2012	2013	2014
専門科目 2011年度～2014年度設置科目	必修科目	心理学史	2011		
		心理学概論	2011		
		心理学基礎演習1	2011		
		心理学基礎演習2	2011		
		臨床心理学概論1	2011		
		臨床心理学概論2	2011		
		カウンセリング1	2011		
		カウンセリング2	2011		
		キャリアとライフ	2011		
		心理学研究法1	2011		
		心理学研究法2	2011		
		臨床心理学研究法1	2011		
		臨床心理学研究法2	2011		
		臨床心理学演習1	2011		
		臨床心理学演習2	2011		
		卒業研究・卒業論文1	2011		
		卒業研究・卒業論文2	2011		
	選択必修科目	心理統計法1	2011		
		心理統計法2	2011		
		心理学測定法1	2011		
		心理学測定法2	2011		
		心理学基礎実験1	2011		
		心理学基礎実験2	2011		
		心理学情報処理1	2011		
		心理学情報処理2	2011		
		心理学アセスメント1	2011		
		心理学アセスメント2	2011		
		心理療法1	2011		
		心理療法2	2011		
		人間関係の心理学1	2011		
		人間関係の心理学2	2011		
		社会心理学1	2011		
		社会心理学2	2011		
		コミュニケーションの心理学1	2011		
		コミュニケーションの心理学2	2011		
		ステレオタイプの心理学1	2011		
		ステレオタイプの心理学2	2011		
	社会科学としての心理学	家族心理学1	2011		
		家族心理学2	2011		
		コミュニティ心理学1	2011		
		コミュニティ心理学2	2011		
		発達社会心理学1	2011		
		発達社会心理学2	2011		
		消費者行動の心理学1	2011		
		消費者行動の心理学2	2011		
		社会的貢献の心理学1	2011		
		社会的貢献の心理学2	2011		
		産業・組織心理学1	2011		
		産業・組織心理学2	2011		
	人間科学としての心理学	認知心理学1	2011		2013
		認知心理学2	2011		2013
		認知心理学			2014
		思考・言語心理学			2014
		学習の心理1	2011		
		学習の心理2	2011		
		学習の心理学1		2012	2013
		学習の心理学2		2012	2013
		学習の心理学			2014
		動機づけの心理学			2014
		教育心理学1	2011		
		教育心理学2	2011		
		教育の心理学		2012	
		人格心理学1	2011		2013
		人格心理学2	2011		2013
		人格心理学			2014
		適応の心理			2014

区分	授業科目名	設置(学則に記載された)年度			
		2011	2012	2013	2014
専門科目 2011年度～2014年度設置科目	人間科学としての心理学	発達心理学1	2011		2013
		発達心理学2	2011		2013
		幼児・児童心理学			2014
		生涯発達心理学			2014
		青年心理学	2011		
		青年期の心理学		2012	
		感覚・知覚心理学1	2011		2013
		感覚・知覚心理学2	2011		2013
		感覚・知覚心理学			2014
		生理心理学1	2011		2013
		生理心理学2	2011		2013
		生理心理学			2014
		神経心理学			2014
	臨床実践につながる	障害児心理学1	2011		
		障害児心理学2	2011		
		精神医学1	2011		
		精神医学2	2011		
		精神医学診断1	2011		
		精神医学診断2	2011		
		心身医学1	2011		
		心身医学2	2011		
		深層心理学	2011		
		犯罪心理学	2011		
		人間性心理学	2011		
		ポジティブ・健康心理学	2011		
		福祉臨床心理学	2011		
		子どもの心理臨床	2011		
		教育相談とスクール・カウンセリング	2011		
		キャリア・カウンセリング	2011		
		行動と心理臨床	2011		
		臨床心理学の実践1	2011		
		臨床心理学の実践2	2011		
	心理学をより深く理解する	英語原書講読1	2011		
		英語原書講読2	2011		
		学術論文作成法1	2011		
		学術論文作成法2	2011		
		比較文化論		2012	
	選択科目Ⅰ	教育学概論	2011		
		教育職の研究	2011		
		生徒指導論1	2011		
		生徒指導論	2011		
		生涯学習概論1	2011		
		生涯学習概論2	2011		
		教育評価・測定法1	2011		
		教育評価・測定法2	2011		
		教育史1	2011		
		教育史2	2011		
		学校経営論1	2011		
		学校経営論2	2011		
		教育方法論1	2011		
		教育方法論2	2011		
		特別活動の研究	2011		
		教育法学	2011		
		道德教育の研究	2011		
		教職演習	2011		
		教育実践の研究	2011		
	選択科目Ⅱ	社会科教育論Ⅰ	2011		
		社会科教育論Ⅱ	2011		
		社会科・公民教育論Ⅰ	2011		
		社会科・公民教育論Ⅱ	2011		
		教育社会学	2011		
		教職特講	2011		
		教育実習Ⅰ	2011		
		教育実習Ⅱ	2011		
		教職実践演習(中・高)	2011		



設置科目の変遷

これまでとこれから
2002年—2022年

専門科目
2015年度～2021年度設置科目

区分	授業科目名	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	
必修科目	心理学概論Ⅰ	2015							
	心理学概論Ⅱ	2015							
	心理学基礎演習	2015							
	臨床心理学概論Ⅰ	2015		2017					
	臨床心理学概論Ⅱ	2015		2017					
	臨床心理学概論				2018				
	カウンセリング	2015		2017					
	心理学的支援法				2018				
	キャリアとライフ	2015							
	心理学研究法Ⅰ	2015							
	心理学研究法Ⅱ	2015							
	臨床心理学演習Ⅰ	2015							
	臨床心理学演習Ⅱ	2015							
	卒業論文・卒業研究Ⅰ	2015							
	卒業論文・卒業研究Ⅱ	2015							
	臨床心理における法と倫理	2015		2017					
	心理学アセスメント	2015		2017					
	心理的アセスメント				2018				
	心理療法	2015							
	選択必修科目	心理統計法Ⅰ	2015		2017				
		心理統計法Ⅱ	2015		2017				
心理学統計法Ⅰ					2018				
心理学統計法Ⅱ					2018				
心理学基礎実験Ⅰ		2015		2017					
心理学基礎実験Ⅱ		2015		2017					
心理学実験Ⅰ					2018				
心理学実験Ⅱ					2018				
心理学情報処理Ⅰ		2015							
心理学情報処理Ⅱ		2015							
臨床心理学研究法Ⅰ		2015							
臨床心理学研究法Ⅱ		2015							
心理検査実習		2015		2017					
心理カウンセリング演習		2015		2017					
精神医学Ⅰ		2015		2017					
精神医学Ⅱ		2015		2017					
臨床心理学の実践		2015		2017					
精神疾患とその治療					2018				
精神医学					2018				
選択科目		認知心理学	2015		2017				
		思考・言語心理学	2015		2017				
	感覚・知覚心理学	2015		2017					
	知覚・認知心理学				2018				
	認知科学				2018				
	青年期の心理学	2015							
	幼児・児童心理学	2015							
	生涯発達心理学	2015		2017					
	発達心理学				2018				
	人間関係の心理	2015		2017					
	社会・集団・家族心理学				2018				
	社会心理学	2015							
	学習の心理学	2015		2017					
	学習・言語心理学				2018				
	教育の心理学	2015		2017					
	教育・学校心理学Ⅰ				2018				
	適応の心理	2015							
	心理学史	2015							
	家族心理学	2015							
	コミュニティ心理学	2015							
	産業・組織心理学	2015							
	生理心理学	2015		2017					
	神経心理学	2015		2017					
	神経・生理心理学				2018				
	対人・社会心理学	2015							
	グループ・ダイナミクス論	2015							
	感性心理学	2015							
	行動分析	2015							
	I 心理学理論								

専門科目
2015年度～2021年度設置科目

区分		授業科目名	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	
選択科目	Ⅰ 心理学理論	比較文化論	2015							
		人体の構造と機能及び疾病				2018				
	Ⅱ アカデミック スキル	心理学測定法Ⅰ	2015							
		心理学測定法Ⅱ	2015							
		英語原書講読Ⅰ	2015							
		英語原書講読Ⅱ	2015							
	Ⅲ 臨床心理学・ カウンセリング	公認心理師の職責				2018				
		関係行政論				2018				
	Ⅳ 心を 理解する	人格心理学	2015		2017					
		感情・人格心理学				2018				
		動機づけの心理学	2015							
		医療臨床心理学	2015		2017					
		健康・医療心理学Ⅰ				2018				
		精神薬理学	2015							
		人間性心理学	2015							
		犯罪心理学	2015		2017					
		司法・犯罪心理学Ⅱ				2018				
		障害児・者心理学	2015		2017					
		障害者・障害児心理学				2018				
		発達障害児・者心理学	2015							
		臨床青年心理学	2015							
		深層心理学	2015							
		心理検査実習				2018				
		Ⅴ 心に 働きかける	サービス・ラーニング	2015						
			ポジティブ・健康心理学	2015		2017				
			健康・医療心理学Ⅱ				2018			
	福祉臨床心理学		2015		2017					
	福祉心理学					2018				
	子どもの心理臨床		2015							
	産業カウンセリング		2015							
キャリア・カウンセリング	2015									
行動と心理臨床	2015									
教育・学校心理学Ⅱ					2018					
教育相談とスクール・カウンセリング	2015			2017						
異文化カウンセリング	2015									
司法・矯正の心理	2015			2017						
司法・犯罪心理学Ⅰ					2018					
被害者支援の心理学	2015									
ピア・サポート	2015									
心理臨床・実践領域実習	2015			2017						
臨床心理学の実践					2018					
心理演習				2018						
心理実習				2018						

臨床心理学科

心理的援助を必要とする人を理解し、適切なケアを実践できる
職業人・心理的援助者の養成を主としたカリキュラム

臨床心理学科開設時には、臨床心理学、基礎・応用心理学、教育学をカバーしたカリキュラムであったが、2011(平成23)年度入学生より卒業基準単位等の見直しを行い、選択科目を「臨床実践につながる心理学」・「社会科学としての心理学」・「人間科学としての心理学」・「心理学をより深く理解する」という4領域に再配置を行なった。

2015(平成27)年に公認心理師法が成立したことに

伴って、科目の名称変更や統廃合、授業目標や扱う内容の見直しなどを行ない、2018(平成30)年度入学生より公認心理師対応科目を配置した新カリキュラムが適用されている。

現在は、専門科目を体系的に学べるように「心理学的理論」・「臨床心理学・カウンセリング」・「アカデミックスキル」・「心を理解する」・「心に働きかける」という5領域でカリキュラムを編成している。



設置科目の変遷

対人・社会心理学科
2011～2021年度

各年度の学則に基づいて、教養的科目を2014年度以前と2015年度以降に分割して掲載、専門科目は2011年度の学科開設から2021年度までを一括して掲載

教養的科目

2011年度～2014年度設置科目

区分	授業科目	設置(学則に記載された)年度		
		2011	2013	2014
一般教育科目	(全学共通科目)			
	必修科目 学修の基礎Ⅰ			
	仏教学			
	哲学			
	歴史学			
	文学			
	法学			
	政治学			
	経済学			
	統計学			
	社会学			
	数学			
	環境科学			
	生物学			
	心理学			
外国語科目	総合科目			
	(学際科目・2018年より教養的学際科目)			
	必修科目 学修の基礎Ⅱ			
	情報処理の基礎			
	キャリア開発基礎講座Ⅰ			
	キャリア開発基礎講座Ⅱ			
	キャリア開発基礎講座Ⅲ			
	海外留学		2013	
	日本事情Ⅰ(留学生用)			
	日本事情Ⅱ(留学生用)			
	英語Ⅰ			
	英語Ⅱ			
	英語Ⅲ			
	ドイツ語Ⅰ			
	フランス語Ⅰ			
	中国語Ⅰ			
	ハンガールⅠ			
	日本語Ⅰ(留学生用)			
	英語Ⅳ			
	Advanced English			
	ドイツ語Ⅱ			
	フランス語Ⅱ			
	中国語Ⅱ			
	ハンガールⅡ			
	日本語Ⅱ(留学生用)			

教養的科目

2015年度～設置科目

区分	授業科目名	設置(学則に記載された)年度 2015～
一般教育科目	(全学共通科目)	
	必修科目 学修の基礎Ⅰ	
	学修の基礎Ⅱ	
	仏教入門	
	仏教と人間	
	哲学入門	
	哲学概論	
	歴史と文化	
	歴史と世界	
	文学入門	
	文学の世界	
	法学入門	
	法律学概説	
	政治学概説	
	現代日本の政治と社会	
	経済学概説	
外国語科目	経済学と社会	
	統計学序説	
	統計学概説	
	社会学概説	
	社会学の基礎	
	数学の世界	
	環境科学	
	進化生物学とは何か	
	進化生物学の世界	
	心理学	
	心理学理論と心理的支援	
	教養基礎	
	教養総合	
	情報処理の基礎	
	キャリア開発基礎講座Ⅰ	
	キャリア開発基礎講座Ⅱ	
	キャリア開発基礎講座Ⅲ	
	海外留学	
	ドイツの文化とことば	
	フランスの文化とことば	
	中国の文化とことば	
	コリアの文化とことば	
	English ReadingⅠ	
	English ReadingⅡ	
	English WritingⅠ	
	English WritingⅡ	
	Englsih SpeakingⅠ	
	Englsih SpeakingⅡ	
	Practical EnglishⅠ	
	Practical EnglishⅡ	
	Advanced EnglishⅠ	
	Advanced EnglishⅡ	
	ドイツ語Ⅰ	
	ドイツ語Ⅱ	
	フランス語Ⅰ	
	フランス語Ⅱ	
	中国語Ⅰ	
	中国語Ⅱ	
	日本事情Ⅰ	
	日本事情Ⅱ	
	日本語Ⅰ	
	日本語Ⅱ	
	日本語Ⅲ	
	日本語Ⅳ	

専門科目

2011年度～2021年度設置科目

区分	授業科目名	設置(学則に記載された)年度										
		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
必修科目	心理学概論	2011										
	心理学史	2011						2017				
	心理学研究法					2015						
	対人・社会心理学概論1	2011			2014							
	対人・社会心理学概論2	2011			2014							
	対人・社会心理学概論Ⅰ					2015						
	対人・社会心理学概論Ⅱ					2015						
	対人・社会心理学基礎演習1	2011			2014							
	対人・社会心理学基礎演習2	2011			2014							
	対人・社会心理学基礎演習					2015						
	心理学統計法1	2011			2014							
	心理学統計法2	2011			2014							
	心理学統計法Ⅰ					2015						
	心理学統計法Ⅱ					2015						
	心理学基礎実験1	2011			2014							
	心理学基礎実験2	2011			2014							
	心理学基礎実験Ⅰ					2015		2017				
	心理学基礎実験Ⅱ					2015		2017				
	心理学実験Ⅰ								2018			
	心理学実験Ⅱ								2018			
	キャリアとライフ	2011						2017				
	心理学と職務スキル								2018			
	対人・社会心理学演習1	2011			2014							
	対人・社会心理学演習2	2011			2014							
	対人・社会心理学演習Ⅰ					2015						
	対人・社会心理学演習Ⅱ					2015						
	卒業論文・卒業研究1	2011			2014							
	卒業論文・卒業研究2	2011			2014							
	卒業論文・卒業研究Ⅰ					2015						
	卒業論文・卒業研究Ⅱ					2015						
	社会心理調査の基礎	2011			2014							
	対人・社会心理学研究入門					2015		2017				
	対人・社会心理学研究法								2018			
	社会心理調査の方法	2011						2017				
	プレゼンスキルトレーニング	2011										
	社会心理データ分析法	2011										
	社会心理質的研究の方法	2011										
	社会心理測定法	2011			2014							
選択科目Ⅰ	スキル系					2015		2017				
	心理アセスメント実習								2018			
	心理的アセスメント											
	心理学英語論文購読	2011										
	対人スキルトレーニング	2011										
	リーダーシップトレーニング	2011										
	社会心理調査実習1	2011			2014							
	社会心理調査実習2	2011			2014							
	社会心理調査実習Ⅰ					2015						
	社会心理調査実習Ⅱ					2015						
	発達社会心理学1	2011			2014							
	発達社会心理学2	2011			2014							
	発達社会心理学					2015						
	社会化の心理学					2015		2017				
	自己心理学	2011										
	キャリア心理学	2011										
選択科目Ⅱ	自己心理学	2011										
	ポジティブ心理学	2011										
	健康心理学1	2011			2014							
	健康心理学2	2011			2014							
	健康心理学					2015		2017				
	健康・医療心理学								2018			



設置科目の変遷

これまでとこれから
2002年—2022年

専門科目
2011年度～2021年度設置科目

区分	授業科目名	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
自己	臨床社会心理学								2018			
	ストレス・マネジメント					2015		2017				
	人的資源管理論					2015						
自己・対人	対人・社会心理学特別講義Ⅰ								2018			
対人	人間関係の心理学1	2011			2014							
	人間関係の心理学2	2011			2014							
	人間関係の心理学					2015						
	対人行動とパーソナリティ					2015						
	家族心理学1	2011			2014							
	家族心理学2	2011			2014							
	家族心理学					2015		2017				
	対人感情の心理学	2011										
	コミュニケーションの心理学1	2011			2014							
	コミュニケーションの心理学2	2011			2014							
	コミュニケーション心理学					2015						
	恋愛心理学	2011										
	外見心理学	2011										
	社会的欲求の心理学	2011										
	司法・矯正心理学					2015		2017				
	犯罪社会心理学					2015		2017				
	司法・犯罪心理学									2018		
	集団心理学	2011							2017			
	社会・集団・家族心理学									2018		
	ビジネス心理学	2011			2014							
	経営心理学						2015					
犯罪社会心理学	2011			2014								
集団	リスクマネジメントの心理学	2011										
	情報社会の心理学	2011							2017			
	産業・組織心理学1	2011			2014							
	産業・組織心理学2	2011			2014							
	産業・組織心理学					2015						
	消費者行動の心理学1	2011			2014							
	消費者行動の心理学2	2011			2014							
	消費者心理学					2015						
	マーケティング心理学					2015						
	コミュニティ心理学1	2011			2014							
	コミュニティ心理学2	2011			2014							
	コミュニティ心理学					2015		2017				
	社会福祉学					2015		2017				
	福祉心理学									2018		
	対人・社会心理学特別講義Ⅱ									2018		
	文化	ステレオタイプの心理学1	2011			2014						
ステレオタイプの心理学2		2011			2014							
ステレオタイプの心理学						2015						
社会的貢献の心理学1		2011			2014							
社会的貢献の心理学2		2011			2014							
社会的貢献の心理学						2015						
ジェンダー心理学		2011										
進化心理学		2011										
宗教と実存の心理学		2011			2014							
言語と文化の心理学		2011			2014							
社会言語学						2015						
比較文化の心理学		2011			2014							
文化心理学						2015		2017				
災害心理学						2015		2017				
交通心理学						2015						
メディアと社会心理						2015		2017				
メディア心理学										2018		

選択科目Ⅰ

専門科目
2011年度～2021年度設置科目

区分	授業科目名	設置(学則に記載された)年度											
		2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	
選択科目Ⅱ	心理学史								2018				
	感覚・知覚心理学1	2011		2013									
	感覚・知覚心理学2	2011		2013									
	感覚・知覚心理学				2014			2017					
	認知心理学1	2011		2013									
	認知心理学2	2011		2013									
	認知心理学				2014			2017					
	知覚・認知心理学								2018				
	認知科学								2018				
	思考・言語心理学				2014			2017					
	学習・言語心理学								2018				
	学習の心理1	2011		2013									
	学習の心理2	2011		2013									
	学習の心理学				2014			2017					
	動機づけの心理学				2014								
	教育心理学1	2011		2013									
	教育心理学2	2011		2013									
	教育の心理学				2014			2017					
	教育・学校心理学								2018				
	基礎・応用	人格心理学1	2011		2013								
		人格心理学2	2011		2013								
		人格心理学				2014			2017				
		感情・人格心理学								2018			
		適応の心理				2014							
		発達心理学1	2011		2013								
		発達心理学2	2011		2013								
		幼児・児童心理学				2014							
		青年期の心理学				2014							
		生涯発達心理学				2014			2017				
		発達心理学								2018			
		生理心理学				2014			2017				
		神経心理学				2014			2017				
		臨床心理学					2015		2017				
		カウンセリング論					2015		2017				
		医学概論					2015		2017				
		神経・生理心理学								2018			
		臨床心理学概論								2018			
		心理学的支援法								2018			
		人体の構造と機能及び疾病								2018			
	精神疾患とその治療								2018				
障害者・障害児心理学								2018					
公認心理師	公認心理師の職責							2018					
	関係行政論							2018					
	心理演習							2018					
	心理実習							2018					

選択科目Ⅱ

対人・社会心理学科

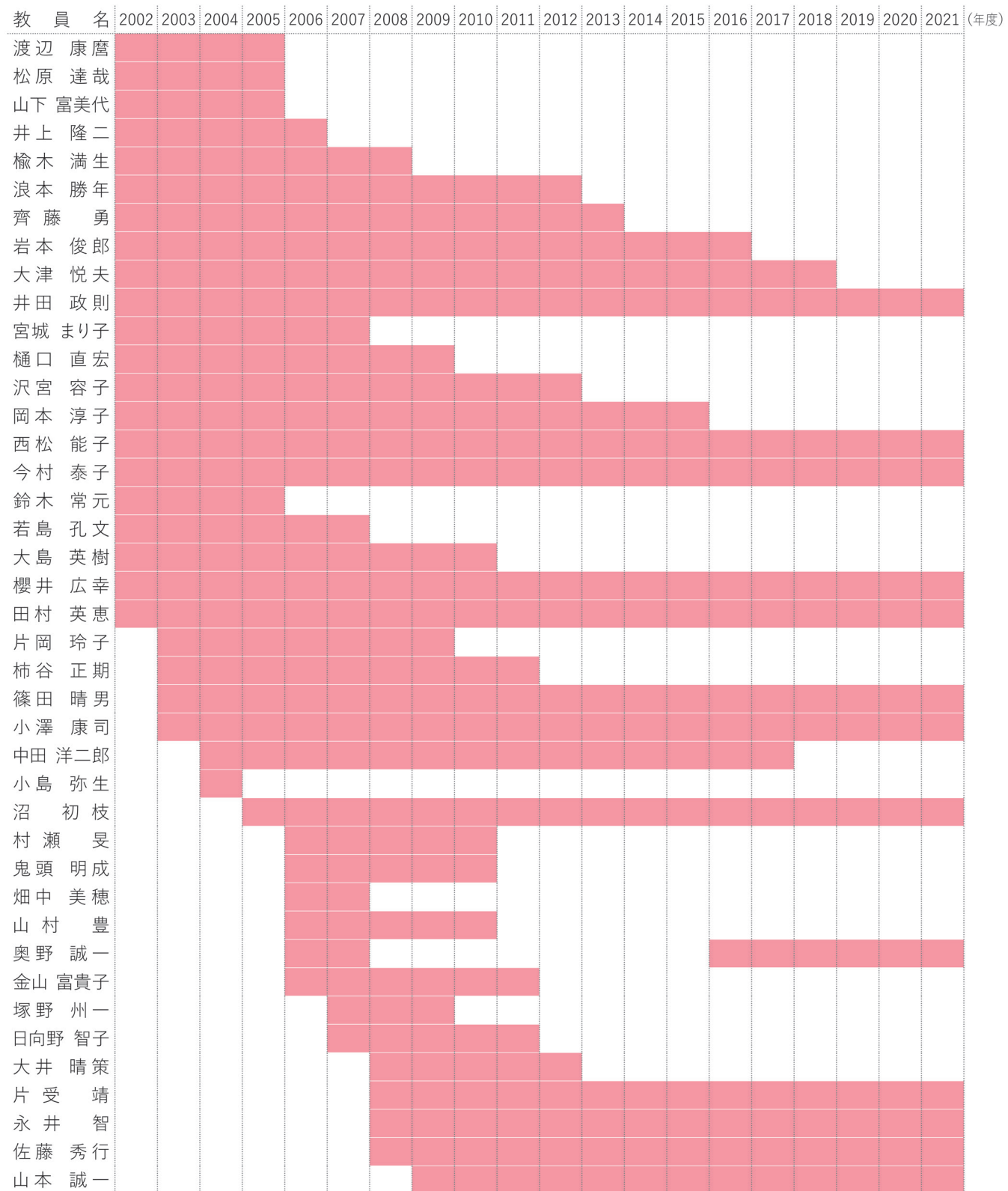
広範な研究領域を網羅し、
人間力・社会人を育成するためのカリキュラム

対人・社会心理学科では、心理学の学びにとって必要不可欠である基礎的知識と研究スキルに関する科目を必修として配置してきた。また、選択科目については、広範な研究領域を網羅したカリキュラムを構築するとともに、学生にとっても各科目相互の関係が理解可能となるように、自己・対人・集団・文化という4分

類を用いた表記を一貫して行ってきた。また、学科設立当初より、人間力、社会人の育成を標榜していることから、現実社会で求められる技能とそれに関連する理論を教授するためのスキル系科目を配置してきた。2018(平成30)年度入学生より公認心理師対応科目を配置した。

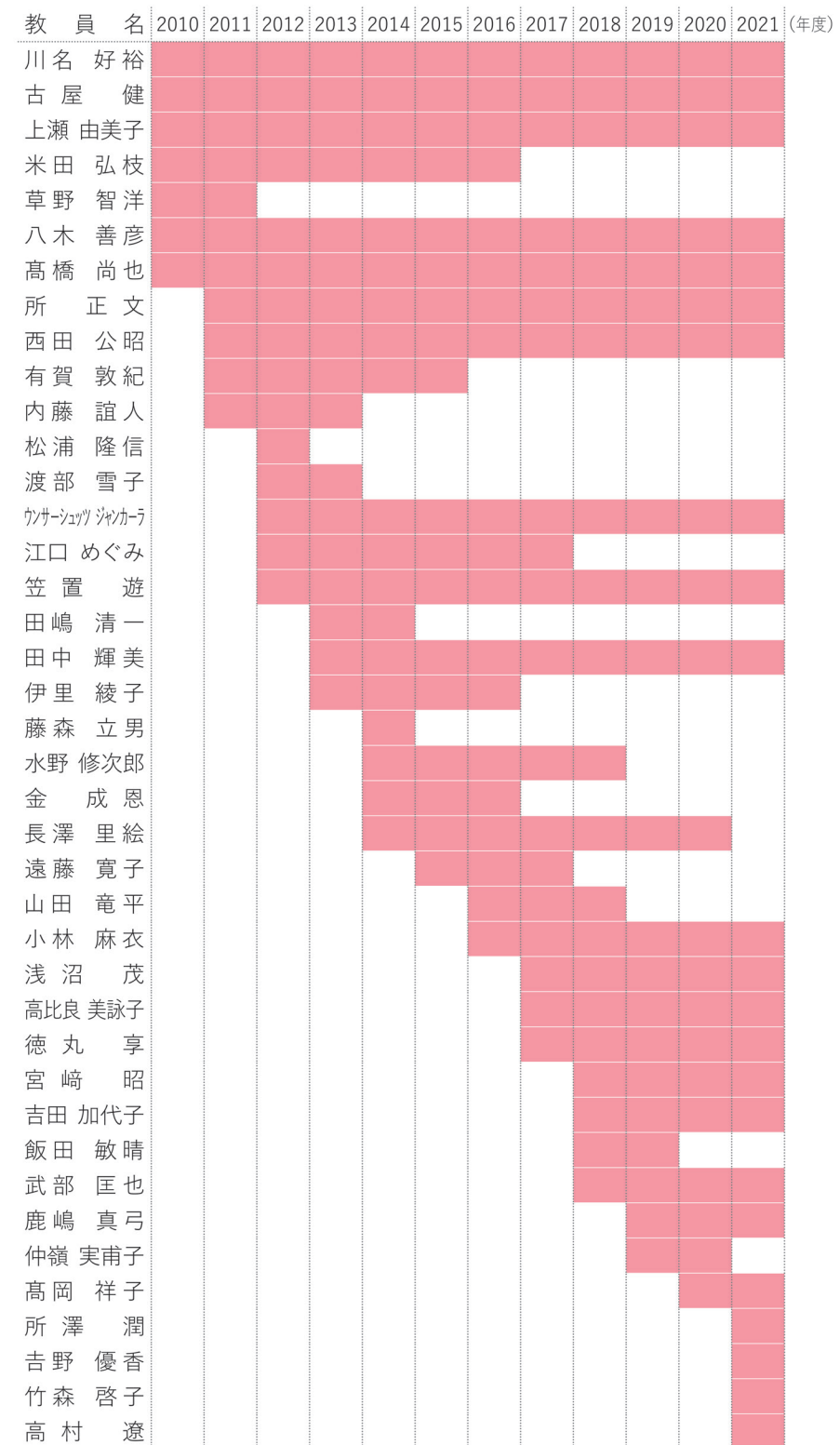


これまでとこれから
2002年—2022年



20年の歩み

教員の変遷



2022年3月31日現在 立正大学心理学部専任教員経験者(特任を含む)

心理学部を支えた
81名の専任教員

心理学部が開設された2002(平成14)年度から今日までの20年の間、延べ81人の教員が学部専任として、心理学部の研究と教育に携わってきた。臨床心理学科では、専門資格(臨床心理士あるいは公認心理師)を有する教員が数多く在籍し、日本有数の臨床心理学教育・研究の拠点として、後進の育成に励んできた。一方、2011(平成23)年度に設立された対人・社会心理学科では、マスコミや海外の一流研究誌に研究成果を発表する気鋭の社会心理学者が常時10名以上在籍してきた。2学科体制となり、心理学部はその特色を内外に明確に示し、全国的にも類を見ない、専門教育機関としてその地位を確立した。同時に、心理学部では、英語を母語とする専任教員を採用し、英語教育にも不断の改革を行っている。



これまでとこれから 2002年—2022年

臨床心理学科



井田 政則 教授

- ①学習・言語心理学
- ②人間や動物の環境への適応—学習過程—の分析



小澤 康司 教授

- ①キャリアとライフ、サービスラーニング
- ②被災者支援、キャリア開発&カウンセリング



所澤 潤 教授

- ①教育史、教職概論
- ②教育方法学、多文化共生、理科教育史、台湾教育、記録資料学



田村 英恵 教授

- ①心理学的支援法
- ②イメージと暗示に関する臨床心理学的研究



今村 泰子 教授

- ①比較文化論
- ②日英比較表現研究、比較文化研究



篠田 晴男 教授

- ①障害者・障害児心理学
- ②発達障害の理解・支援と合理的配慮



田中 輝美 教授
〈臨床心理学科主任〉

- ①感情・人格心理学
- ②認知行動論に基づく感情のコントロール



永井 智 教授

- ①心理学研究法
- ②相談行動・援助要請行動、ピア・サポート



西松 能子 教授
〈心理学研究科長〉

- ①精神医学
- ②コンサルテーション・リエゾン精神医学



山本 誠一 教授

- ①臨床心理学概論
- ②青年期の不安・傷つきと個性化の諸問題に関する臨床心理学的なアプローチ



片受 靖 准教授

- ①司法・犯罪心理学 II
- ②産業領域におけるメンタルヘルスに関すること全般および犯罪心理学



佐藤 秀行 准教授

- ①心理的アセスメント
- ②樹木画による性格の理解や援助に関する研究



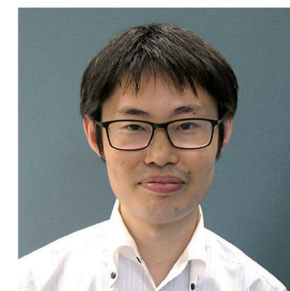
吉田 加代子 准教授

- ①臨床心理学概論
- ②カウンセリング、青年期に関するテーマ



沼 初枝 教授

- ①心理的アセスメント
- ②医療分野における心理臨床



奥野 誠一 准教授

- ①心理演習
- ②子どもの学校不適応と適応支援



櫻井 広幸 准教授

- ①感性心理学、心理学測定法
- ②感性心理学、バーチャルリアリティ、ロボット、ICT、ものづくり心理学、超臨場感、超心理学



徳丸 亨 准教授

- ①福祉心理学
- ②心の健康課題へのコミュニティ心理支援



鹿嶋 真弓 特任教授

- ①学習心理学、青年心理学
- ②教師の指導行動、学級経営、問いを創る授業、構成的グループエンカウンター



これまでとこれから 2002年—2022年

20年の歩み

2021年度教員組織



宮崎 昭 特任教授

- ①健康・医療心理学II
- ②臨床心理学、動作法とソマティック心理学、予防教育「社会性と情動の学習」



竹森 啓子 特任講師

- ①臨床心理学の实践
- ②児童青年期の精神疾患予防、メンタルヘルスリテラシー、援助要請



所 正文 教授

- ①産業・組織心理学
- ②生き方・働き方支援・高齢ドライバー支援



西田 公昭 教授

- ①司法・犯罪心理学
- ②マインド・コントロールの心理学



吉野 優香 特任講師

- ①心理学概論
- ②被援助場面における感謝感情と負債感情に関する研究



武部 匡也 助教

- ①心理学基礎演習
- ②怒り感情のコントロール、摂食障害予防、イップスに対する心理学的支援



古屋 健 教授

- ①リーダーシップトレーニング
- ②心理的ストレス過程とソーシャルサポート



八木 善彦 教授

- ①消費者心理学、認知科学
- ②消費者心理学、認知心理学

対人・社会心理学科



上瀬 由美子 教授
〈心理学部長〉

- ①ステレオタイプの心理学
- ②社会的ステレオタイプや偏見の形成・維持・解消過程



川名 好裕 教授

- ①恋愛心理学
- ②進化心理学



高岡 祥子 特任講師

- ①感情・人格心理学
- ②人と動物のコミュニケーション、表情認知



高村 遼 特任講師

- ①Advanced English I・II
- ②語用論、社会言語学、談話分析



高橋 尚也 教授

- ①社会的貢献の心理学
- ②行政との協働、惨事ストレス、地域のエンパワメント



高比良 美詠子 教授
〈対人・社会心理学科主任〉

- ①心理学研究法
- ②コミュニケーションと適応



小林 麻衣 助教

- ①心理学実験
- ②セルフコントロール、目標追求、自我脅威

①：主な担当科目
②：研究内容

2021年4月1日現在



これまでとこれから 2002年—2022年

心理学部を創った歴代学部長の思い

立正大学心理学部は2002(平成14)年4月に設置され、初代学部長として楡木満生教授が就任されています。その後、2008(平成20)年に第2代学部長として齊藤勇教授、2014(平成26)年に第3代学部長として古屋健教授が務められ、2020(令和2)年には第4代であり現在の学部長となる上瀬由美子教授が就任されています。

ここでは、歴代学部長となる齊藤勇教授と古屋健教授より心理学部開設20周年を迎えての思いを綴っていただきました。また設置当時の様子を振り返るにあ



2002年度—2007年度

初代心理学部長

故 楡木 満生

1 「心理学部」の名前に決まるまで

早いもので、若いつもりで頑張っている、気がついてみたら、いつの間にか定年と呼ばれる時がきていました。心理学部の設置以前の話を知る人が、だんだん少なくなりますので、思い出として記録にまとめておきます。

平成12年にこの新学部(いまの心理学部)の構想が始まると、すぐにまず、文学部哲学科心理学コースの先生方を中心に新学部設置委員会が組織されました。私はまだお茶の水女子大学の教授でしたが、その会議に呼ばれ、何回か会議に参加することになりました。始めて訪れた立正大学の大崎校舎の桜が満開で美しく、校舎が機能的に組み合わせり大変印象的であったことを覚

たり、2009(平成21)年に発刊された立正大学心理学部研究紀要第7号掲載の故楡木満生教授による「思い出の記」を転載させていただきました。

心理学部の開設から現在まで、心理学部の運営や教育研究に多大な貢献をされた先生方からのお言葉は、まさに心理学部の20年間の軌跡でもあります。心理学部を学舎とする卒業生や在校生、そして教職員共に心理学部が辿ってきた道を振り返ることができれば幸いです。

えています。それまで女子大学にいたので、男女の学生と一緒にキャンパスを歩いている風景が新鮮でした。この会議では、新しい「臨床心理学部」構想がスタートすることになり、学生数や教員配置の問題など新学部設立趣意書の作成に取りかかりました。

そのような中で私は、心理学部が開設する1年前の平成13年(2001)4月で、文学部・文学研究科の教授として赴任してきました。平成12年から13年にかけて澤田副学長、小林副学長や小田部事務局長などと協力しながら、心理学部の中核になる松原達哉、山下富美代、井上隆二諸先生などとも話し合い、少しずつ学部の構想を固めていきました。会議で決めたことをもとにして、何度か文部省に出かけていっては意見を聞き、その意見を持ち帰っては、また、会議で修正を重ねるという作業が続きました。約1年半以上の時間をかけて臨床心理学部の設立趣意書が出来上がり、文部省に提出しました。

その後に、平成13年11月には、文部省から今田委員長を団長とする大学設置審議委員会の先生方3名の実地調査がありました。1号館4階の第7会議室で、A室側に大学設置審議委員会の3名の先生方が座られ、中仕切りを隔ててB室側に当時の吉田英夫学長、小林英吾副学長、小田部事務局長、野口部長、松原達哉先生と私たち立正大学関係者が、座りました。仕切りが取り除かれてみると、ちょうど将棋の駒のように向かい合わせに

なり、一問一答の形式で議事が進められた。その中で私のことも新しい学部長候補者として紹介されたのを覚えています。審議会委員の方から一番質問が集中したのは、当初立正大学の構想では「臨床心理学部」の設置を希望していましたが、何故、この学部名を使用しなければならないかということでした。立正大学側としては、これからの本学の発展のためにこの名前が必要なのだと説明したがなかなか納得してもらえませんでした。

この点は、次週に文部省から正式に文書で「心理学部」とするようにと勧告がありました。立正大学側もそれを受け入れたのでここに「心理学部」の名前の学部が誕生することになったわけです。文部省の意見では、平成13年当時まだ「心理学部」を名乗っているのが中京大学のみであり、心理学部の名称が珍しい時代に、臨床心理学部の名前を名乗るのは時期尚早であるというのがその主旨でした。このとき文部省の勧告文の中で学科としては、臨床心理学科と名乗ることも許されました。

正式に認可が下りたのは、平成14年正月に入ってからで、第1回生の入試はほとんど見込み発車の状況の中で準備が行われていました。

2 心理学部開設講演会と シンポジウムの開催の大誤算

心理学部を開設するにあたって、心理学部の設立を多くの人に理解してもらうために記念イベントを行おうということになり、平成14年1月には松原達哉、岡本淳子、宮城まり子、齊藤勇先生方とともに企画をねりました。そして講演会の特別ゲストに日本臨床心理士会長の河合隼雄先生をお呼びすることも決まり、私達心理学部関係者は万全を尽したつもりでいました。さらに、この企画は山手線の車内にも中吊り広告を出し、大いに宣伝して盛り上げたつもりでした。

ところがその講演会とシンポジウムの開催直前になって、私達心理学部関係者は、ある大学幹部に呼び出された。そして「今回のこの企画は、大変大がかりに宣伝しているが、もし人が集まらなかったら、どう責任を取っ

歴代心理学部長のことば

心理学部開始前の思い出

てくれるのだ。先日、別のある学部の講演会では広い会場に十名前後の観客しか集まらなかった。今回は石橋講堂を借りているようだが、そのように人が集まらなかったら大変だから、事前に関係者の何人かには来てもらうように連絡しておいてほしい」といわれた。

この発言には心理学部の関係者はお互いに顔を見合わせた。その前週に河合隼雄先生は文化庁長官に就任したばかりであり、まさか人が集まらないということは考えられないが、それでも念のために関係者には出席してもらうように知っている人たちに電話で頼んだりもしました。

イベント当日になりました。ところが開演2時間も前から大崎校舎の周辺には人が集まり始め、1時間前には数百人の行列が出来たので開場を早めることにしました。それでも人がぞくぞく集まり続けてきます。開演予定時間になったときには、立正大学校舎から大崎駅、五反田駅まで人の行列でつながってしまいました。結局石橋講堂の収容人数600名のところに、推定で2000人以上の人が集まったとのことでした。さらに341教室に別会場を用意してモニター画面でテレビ中継を行い300名入ってもらい、それでも参加できなかった人にはお引取り願うことになりました。

私達このイベント企画者にはうれしい誤算であった。それからあと、私たちは入場できなかった人たちからのクレーム処理に追われたのは勿論のことであった。あとから、人に「予約を取るべきであった」といわれました。

これらの話は当時、社会から求められていた臨床心理学に対する期待の大きさを物語る現象であるとともに、これから進めていく私たち心理学部の社会的責任の重さを痛感する出来事でもありました。

ここまで平成13年度に起きた出来事を書きましたが、この後の心理学部が発足した平成14年4月以降の状況は、多くの先生方が見たり聞いたりしているのでその先生方に書いていただきたいと思っている次第である。

「楡木満生(2009)思い出の記 立正大学心理学部研究紀要第7号、83-85」より転載



これまでとこれから 2002年—2022年



2008年度—2013年度

第2代心理学部長

齊藤 勇

立正大学心理学部開設二十周年、おめでとうございます。二十年は生まれた子が、成人式を迎える年であることを思うと、心理学部が、二十年を経て、立派に成長し、今や社会に貢献できる経験知と研究力、応用力をそなえて発展していると聞くに、喜びを感じざるを得ません。

子の誕生にも生みの苦しみと喜びがあり、子育てにも、苦難と感動があるように、新しい学部の新設のことを思い起こしてみると、大変な困難と強いやりがいを感じていたことを思い出します。私は、心理学部開設準備の当時は、学内行政的にはなんの権限もなく、ただ、教員として心理学の魅力とその将来性を一人、叫んでいた少数派でした。集団の中で、少数派の意見は、受け入れられなく、それどころか、そんな輩は集団の厄介者として排除される運命にあります。そのことは、同調行動が研究テーマの一つであった私には頭ではよく分っていたことですが、現実にはその圧力を前にすると、アクティブ・マイノリティの効力など、生まれようがありませんでした。それに教養部が改組されてからは仲間もいませんでした。後から聞くと、胸の内では賛成していた、という人も何人かはいましたが、声は聞こえず、最小少数派に甘んじていました。心理学部どころか、心理学科も、ままならぬ状況で、あきらめ、あきらはてる心境でした。アッシュの同調行動の研究でも、もう一人二人逸脱者がいれば、同調圧力のいじめは減るのですが、そのもう一人が近くにいなかったのです。では、なぜ、当時、日本にまだ、一つもない心理学部を開設することがで

きたのでしょうか。それは、近くには、賛成者はいなかったのですが、大学執行部が新学部開設を急務と考え、動き始めていたからです。

日本社会は、バブルがはじけ、未曾有の停滞期に入り、出口の見えない不況は、大学経営に及んできていました。立正大学も東京ドームを何日間も借り切って、入学試験を挙行し悦にいった直後から、受験者数は激減し、一気に大学存続の危機とまでいわれるようになっていました。大学経営者にとって、この状況に手をこまねているわけにはいかなかったのでしょうか。一教員の私には、うかがい知ることもできませんが、毎年3割減の受験生数を突きつけられていたので、対策は急がれ、それもトップダウンの即効性のある策が必要となったのでしょう。モスコビッチはアクティブ・マイノリティが、集団を動かすのは、集団のそれまでの規範が揺らいだ時だと言っています。伝統ある大学は、その伝統の規範が、良くも悪くも、大学を支配して保守的に対応していきます。しかし、そのやり方が、うまくいかなかったときは、マイノリティへ視点が動くことになると指摘しています。モスコビッチのいう変革の視点です。

伝統ある立正大学も、他の大学同様、教授会が、力をもつ、ボトムアップの経営でした。伝統を破る改革には、時にトップダウンが必要ですが、簡単ではありません。しかし、当時の立正大学の状況は、大学執行部が、大学経営という視点から改革の必要にせまられたのでしょう。各教授会も各々の改良を推し進めてはいましたが、学科一つ作るのも、なかなか難しい状況でした。ただ、学科新設は教授会の事項だから、うまく進まないが、新学部の開設は、教授会を超えた大学事項なので、大学が、その気になれば、できるのです。当時、どの大学の経営者も、受験生を集められる学部を欲しがっていたといえます。しかし、日本全体の停滞しているなかで、高校生から注目され、社会から評価され、実際に学生を集められるような、目玉となるような学問の領域は、そう簡単には見つからない状況でした。

しかし、幸いなことに心理学だけは違っていたのです。日本全体が沈滞し、見通しのない社会のなか、人々の心

もまた、沈み、ウツウツとし、心を病む人が多くなっていました。高度経済成長からバブル期の元気な日本人はいなくなり、日本の経営の破綻で、日本人の心はよりどころを失ってしまいました。心が病む人が目立つようになり、その相談先が、必要となってきた。この状況から、臨床心理学が急速に注目され始めていたのです。以前からアメリカでは、体の痛いときは病院に、心の病は、心理カウンセラーに、といわれていましたが、日本にもその需要が急に生まれたのです。しかし、供給側のカウンセラーがいなく、公的資格もなかったのです。そして、遅ればせながら臨床心理士資格が生まれ、その仕事に若者、特に女子学生は、興味をもち、将来の仕事と考え、それが取得できそうな学部学科への進学希望が急増していたのです。

また、社会からも、それまで、暗い、とされ、敬遠されてきた心理学が、人の心を知ることができる学問として、注目されてきていたのです。時流に敏感なマスメディアも、心理学を話題として多く取り上げ、心理学をメインにしたバラエティ番組も放映されたのです。しかもそんな番組が、若い女性に大人気となり、女子高生は、心を知る学問の心理学は、どこに進学すれば、学べるのか、と探し求めるようにまでなっていたのです。

そんな当時、立正大学には、幸い、心理カウンセラーを専門とする著名な教授やメディアで活躍する教授がいました。そのことから大学執行部はトップダウンで、心理学部、それも、臨床心理学部を品川キャンパスに開設するとの号令を下したのです。その準備委員会のメンバーの一人として、私も学長室に呼ばれました。そのとき、当時の学長サイドから個人的に、「とにかく、心理学部で、3年間、学生を集めてくれ、その間に、大学を改革するから」と言われたことが今でも耳に残っています。そのときは、えっ、たった3年の期待、と半分は耳を疑いましたが、その英断に感謝しました。

キャンパスは、品川と決まりましたが、当時は、工場等規制法により、東京に新学部を作ることは、例外を除き、できなかったのです。しかしその例外項目の中にカウンセラーが入っていたのです。大学執行部が、それに

歴代心理学部長のことは

心理学部開設時前後を思い起こすと、

着目し、臨床心理学部開設を決断したのは慧眼といえましょう。大学執行部の賢明な決断と勇氣ある遂行が、今の心理学部を創り上げた出発点であり、最大の功績と言えると思います。いまの心理学部の発展と大学での確固たる位置を見るに当時の関係者に感服する次第です。

さて、学長命令と言っても、当時の立正大学では、心理学部開設がスムーズに進んだわけではありません。なにしろ、準備委員会のメンバー十数人の内、臨床心理学の専門家は数名だったのです。「不思議な会議ですね、設立委員会なのに、足を引っ張る人の方が多いんですね」と関連スタッフの一人が、驚いていたことが印象に残っています。文科省からも、臨床心理学部は時期尚早ということで心理学部ならよしと了承されました。心理学部は臨床心理学科単科として、開設が進められました。

社会的には心理学部は、準備段階から、幸い、大いに注目されました。多くの著名な教授や優秀な若手心理学者がメンバーに加わっていただくことができました。開設シンポジウムには、三千人余が押しかけ、大崎警察署から一言いわれるくらいの盛況で、大学側の要望通り、多くの受験生も集めることができました。しかし、学部が始まるとすぐに問題が起きました。入って来た学生の大半が、臨床心理士になることを目指し胸を膨らませて入学して来たのです。それはうれしいことでしたが、しかし、臨床心理士は大学院資格で、学部資格ではないのです。そのことは、学生にとっては、大きな失望と不満をもたらすことになり、それを修正するのに、かなりの時間を要することになったのです。しかし、いずれにしろ、大学との約束の3年間受験生数確保は果たされ、その後、今に至るまでも維持されていると聞きます。私自身は定年退職後は大学とも縁遠くなりましたが、そのレベルも、現在でも、高く維持されていると聞くに、うれしい限りです。20周年がますますの発展と改革の起点となることを願いたいと思います。最後に、この文は私の思い出の記であり、あくまで、私的な回想でバイアスが多々あることをお許しいただき、筆をおくことにします。



これまでとこれから 2002年—2022年



2014年度—2019年度

第3代心理学部長

古屋 健

心理学部は2022(令和4)年に開設20周年を迎えます。2002(平成14)年に心理学部が設置された頃のことは、きっと齊藤勇先生が詳しくお書きになってくれると思います。ここでは2011(平成23)年に新しく対人・社会心理学科が設置された頃のこと、それから私が学部長を務めた2014(平成26)年から2020(令和2)年頃までの最近10年のことを書きとめておきたいと思います。

「対人・社会心理学科」の作り方

「新しい学科を作るので、立正大学に移ってこないか」と、齊藤先生から声をかけていただいたのは2009(平成21)年のことでした。当時、私は前橋にある群馬大学教育学部に勤務していました。大学の中では学部長補佐的な立場から、開設されたばかりの教職大学院の運営や、国立大学法人化以後の国立大学中期目標・中期計画に関わる仕事をしていました。今に続く、大学教員に課せられる教育研究以外の仕事が増え始めた時期に当たります。私の場合も、新設の教職大学院では院生(主に現職教員)指導にそれまで以上の時間が割かれるようになり、その一方で大学の中期目標・中期計画の一環として求められる教員評価や授業評価のシステム作り、あるいは大学認証評価のための煩雑な事務作業に日々追われるような状況で、その後言われるようになる大学の「評価疲れ」の実態を身をもって経験していました。そのようなタイミングだったこともあり、一緒に新しい心理学の学科を作ろうという齊

藤先生のお誘いはとても魅力的で、何の迷いもなくお話に飛びついた次第です。

大学の中に新しい学部を作るのも、学部の中に新しい学科を作るのも、求められる作業は似ています。学部を作る時ほどではないにせよ、新しい学科を作るにも相当なエネルギーを必要とします。どちらの場合もまず学内・学部内の意見を取りまとめて了解を取り付けること、次に新しい学部・学科で働く新しいスタッフを集めること、そして最後に申請書を作って文科省に認可してもらうという3つの大きなハードルをクリアしていく必要があります。誰がやっても大変な仕事であることには変わりません。しかし、私が立正大学に赴任した時には、すでに齊藤先生が学部長として辣腕を発揮され、学部内の意見のとりまとめと新スタッフを集めるという2つの仕事はほぼ完了していました。おそらく、心理学部を立ち上げた時の勢いそのままに、持ち前のエネルギーを新学科の開設に向け、大いに奮闘されたものと思われます。

実際、新学科開設のために齊藤先生は数年前から並々ならぬご苦勞をされており、当時、その話を聞かされた私たちはただただ頭が下がるばかりでした。たとえば、ある関係者から「既に他の大学にもある『社会心理学科』にしたらどうか、なぜ『対人・社会心理学科』なのか」と言われたそうです。それに対して、成功するためにはあくまで日本にひとつしかない「対人・社会心理学科」でなければならないと主張され、絶対に譲らなかったそうです。ただし、「心理学部」を作った時には名称は「臨床心理学部」にしたいと主張されたそうですが、今になってはその主張が通らなかったおかげで「対人・社会心理学科」を作ることができる、というお話もされていました。

齊藤先生が新学科開設のために払われたご努力を思うと、私たちスタッフ一同、なんとしても受験生の集まる魅力ある学科を作らなければと、開設準備の仕事に一層熱が入りました。2010(平成22)年、齊藤学部長をトップに川名先生、上瀬先生、八木先生、高橋先生そして私をメンバーとする学科開設スタッフが立正大学

に集結し、最後の仕上げとなる、文科省の認可をとるための申請書作りの仕事に取り組むことになりました。申請書には学科設置の趣旨(なぜ新学科が必要なのか)や目的(どのような人材を養成するのか)、その目的を達成するためのカリキュラム(教育課程)編成、授業一覧と授業を担当する教員の履歴・業績一覧、卒業生の進路の見込みなどなど、実に膨大な書類と資料が含まれます。とはいえ、カリキュラムを編成したり、授業を構想したり、授業を担当してもらえそうな先生を見つけたといった仕事は、決して辛い仕事ではありませんでした。自分が学生だったらどんな授業を受けたいだろうかと想像しながら、こんな授業はどうだろう、あの先生はどうだろうとスタッフ会議で話し合うのは、とても刺激的で楽しい経験でした。私としては、対人・社会心理学を学ぶ上で理想的なカリキュラムを編成できた自信がありますし、担当教員にはそうそうたる先生方のお名前を並べることができ、大いに満足できる出来だったと思います。

そのような中、私が主に担当した仕事は文科省向けの文書作りでした。大学の先生は論文を書くことには慣れていても、特殊なボキャブラリーを使う役所向けの文書を書くことには慣れていません。文科省のお役所文書を読み慣れていないと、それらしい文書はなかなか書けないのですが、たまたま私は群馬大学時代にその種の仕事をした経験があり、この時にはそれが役に立ちました。学科設置の申請書の中身を見る機会は滅多にないと思いますので、今、私の手元に残る申請書の草稿の一部をご紹介します。

「このように社会が大きく変化する中で、心理学に対する社会的ニーズも多様化している。特に、官民を問わず、社会の幅広い分野において求められているのは、(1)身近な人間関係から組織における人間行動、さらには経済的・政治的な行動まで、幅広い社会的行動や社会的活動について科学的な観点からその実態を正しく把握する技能を備えた人材、(2)その背景にあって人々を動かしている多様な心情や価値観に関する専門的知識と深い洞察力を備えた人材、(3)その専門的

歴代心理学部長のことば

この10年を振り返って

知識と技能を活かして問題を解明・解決することで社会人・組織人として社会に貢献しようという意欲を持つ人材の育成である。心理学に対するこのようなニーズに応えるためには、心理学部の中に個人と社会との関係に目を向けた新たな学科を設置し、社会の幅広い分野・領域において活躍できる人材を養成して世に送り出すことが責務であると考えます。(「1.対人・社会心理学科設置の趣旨」より)

こうして作成された申請書によって無事に文科省の認可が下り、晴れて対人・社会心理学科の開設を広く広報することができるようになりました。次の問題は果たして受験生が来てくれるかということでしたが、そこは齊藤先生の十八番とするところで、「恋愛心理学が学べる大学」という売り文句で臨床心理学科とは異なる受験者層の注目を集めることができました。そして、1期生を迎える準備も整い、2011(平成23)年度の新学期を目前にした3月11日14時46分、東日本大震災が発生します。その影響で大学の卒業式も入学式も実施できなくなり、新学期の授業開始も5月からという異例の措置が取られることになりました。何とも波乱含みのスタートです。しかし、ほぼ計画通りに1年目を終え、それ以後、順調に受験生を増やすこともでき、2021(令和3)年には10周年を迎えることができました。

「心理学部」の整え方

次の私の仕事は、学科の開設に続いて、大学院修士課程に対人・社会心理学専攻を立ち上げることでした。新専攻開設の同意は得られていましたし、新しい人集めは必要ないので、主な仕事は文科省の認可を得ることだけでした。実際、学科内での話し合いは頻繁に行われましたが、対外的な調整や書類作りは当時の研究科長であった中田洋二郎先生と私が中心になって行いました。中田先生は臨床心理学科の所属ですが、同じ早稲田大学出身ということもあって親しくしていただき、対人・社会心理学専攻の立ち上げに対しても非常に協力的に対応してくださいました。その結果、大き



これまでとこれから 2002年—2022年

なトラブルもなく、学科開設から1年遅れの2012(平成24)年、立正大学大学院心理学研究科に対人・社会心理学専攻を開設することができました。こちらも院生を集めることができ、順調にスタートを切ることができました。中田先生のご助力には、どれほど感謝しても足りないくらいです。

さて、ここは学部開設20周年を記念するところなので、学部のことに話をもどしましょう。齊藤先生のリーダーシップのもとにできあがった対人・社会心理学ですが、残念なことに齊藤先生は4年目の完成を待たずに2013(平成25)年度をもって定年を迎えられました。先生にとっては、実に心残りのことだったと思います。そして、思いがけず齊藤先生を引き継ぐ形で次の心理学部長に選任されたのが私でした。心理学部では、新しい学科ができたことでいろいろ解決しなければならない課題が生まれていました。単純に言えば、学部1学科しかない場合は、学科で決めたことがそのまま学部の決定になります。しかし、学科が2つになったことで、学科間の関係を調整するという新しい仕事が生れます。そのために、学部の既存の規則や仕組みを変えていく必要がありました。結局、私は2期6年間、学部長を務めました。最初の数年間は2学科体制による学部運営のための仕組み作りが仕事の中心でした。たとえば、細かいことと言えば、毎年、卒業式の後に開催している卒業祝賀会を学部全体で行うのか、学科別に行うのかといった問題から(結局、学部全体で行うことになりました)、大きいところでは学部内の委員会運営、人事制度、入試制度など順番に手を入れて改定しなければならませんでした。ここではひとつだけ、大学教育の要であるカリキュラム改正のことを取り上げたいと思います。

私が学部長を務めた6年間のうちに、大きなカリキュラム改正が2回ありました。それぞれ異なる理由から求められたもので、主な作業は学部のカリキュラム委員会が担当し、学部長としては全体を把握しながら学科間の関係を調整することが仕事でした。まず、1回目のカリキュラム改正は2015(平成27)年度に行われま

した。これは対人・社会心理学科が完成して最初の卒業生を出した次の年になります。学部や学科を新設した場合、最初の卒業生が出た年をもって完成年度とし、その間は文科省に提出した申請書通りに運営することが求められます。授業や担当教員に変更があった場合には、その理由を付けて文科省にいちいち報告しなければなりません。完成までの4年間は、原則的に何も変えられないわけです。そこで、実際にやってみて生じた問題点を修正するために、完成年度の2014(平成26)年度に改正の準備を進め、2015(平成27)年度から新カリキュラムをスタートすることになりました。

改正の目的のひとつは全学的な完全セメスター制への対応でした。当時、立正大学では一般教育科目や語学を中心に通年科目が数多く残っていましたので、それらをすべて半期授業に編成し直す必要がありました。また、専門科目は半期2単位の科目が中心でしたが、通年科目であった時の名残で同じ科目名に「〇〇心理学Ⅰ」、「〇〇心理学Ⅱ」と番号が付いた授業がたくさん残っていました。これらもすべて番号のない科目名に名称変更しました。これによって半期ごとに卒業認定が可能になり、9月卒業の制度が確立しました。多くの大学ではとくに完全セメスター制になっていたのも、立正大学はこの点で非常に遅れていたと思います。

学部として大きな改正を行ったのは臨床心理学科のカリキュラムです。対人・社会心理学科開設時、臨床心理学科のカリキュラムはほぼそのままにしておいたため、学部全体で見るとカリキュラム編成に少しいびつなところが生じてしまっていたのです。というのは、私たち開設準備のために集められた教員は、準備のための1年間は臨床心理学科に所属し、臨床心理学科の授業を担当していたのですが、対人・社会心理学科ができてからも、臨床心理学科の授業はそのままカリキュラムに残ったままになっていたのです。その結果、臨床心理学科の学生は対人・社会心理学科の専門科目の一部を受講できるのに、対人・社会心理学科の学生には臨床心理学関係の授業がひとつもないというバランスを欠いた状態が生じてしまいました。臨床心理学科

の学生にとっては科目選択の幅が広がってメリットかもしれませんが、全体として見ると学科の特徴がぼやけてしまっていました。そこで、対人・社会心理学科の教員が担当する臨床心理学科の授業はすべて閉じることにしました。その代わりに、2学科制の利点を生かして、臨床心理学科の教員が対人・社会心理学科で臨床心理学関連の専門科目を2科目、対人・社会心理学科の教員が臨床心理学科で対人・社会心理学関連の専門科目を2科目それぞれ新規に開講することにしました。現行カリキュラムは、この時にその大枠が作られています。

2度目の大きな改正は、2017(平成29)年9月に施行された「公認心理師法」に対応するために行われました。看護師や社会福祉士など、国家資格に関する法律では大学で取得しなければならない科目や単位数がきわめて厳格に定められており、2015(平成27)年の改正で整備したカリキュラムの枠組みの中に資格に必要な科目を当てはめていく必要がありました。一部は既存の科目の名称変更で済みましたが、一部は新規に科目を開講する必要がありました。当然ですが、臨床心理学科に比べると、対人・社会心理学科のカリキュラムの枠組みに必要な科目を入れ込むのはとても面倒な作業になりました。このカリキュラムは2018(平成30)年度から始まっています。このような資格取得のためのカリキュラム整備には良い面と悪い面の両面があります。良い面は、外部の人に対して、大学で何を勉強しているかを法律が保証してくれることです。悪い面は、カリキュラムが画一化されることで、大学の特色が失われてしまうことです。

カリキュラム改正には、学科を作るために新しいカリキュラムを作り上げた時のようなワクワク感はありません。実際、2回目の改正には義務感しか感じませんでした。しかし、何かを作った後には、メンテナンスの仕事はつきものです。古びたパーツを最新スペックのパーツに取り替え、学部を一段グレードアップする貴重なチャンスだと思って取り組むことが大切なのかもしれません。

歴代心理学部長のことば

この10年を振り返って

「心理学部」の続け方

開設以来20年、心理学部は立正大学の看板学部として確かな評価を得てきました。それは、毎年の入試で多くの受験生を集めていることから分かります。心理学部は「臨床心理士」ブームに乗って誕生し、ブームが去ったタイミングで「対人・社会心理学科」を新設、その後も国家資格公認心理師制度創設にも対応するなど、社会のニーズに合わせて何度も変化してきました。これからも受験生や保護者の注目を集める存在であり続けるためには、心理学や大学教育に対する受験生の動向から目を離さずにいることが肝要です。そのためにも、オープンキャンパスは受験生とコンタクトできる貴重な機会です。そして、心理学部ブースでは実に多くの先生方が入試相談やパネル説明のために受験生と語り合っている姿を見ることができます。この時の受験生と直接触れ合う経験が、日頃の学生指導や学部運営にも良い効果をもたらしていると思います。これからも心理学部が時代の要請に合わせて変化し続けるためにも、是非、この姿は学部の伝統として守り続けて頂きたいと思います。





これまでとこれから 2002年—2022年

卒業生に聞く 心理学部の これまでとこれから

立正大学心理学部の卒業生は約4000人に上ります。20年の歴史がありますから、卒業生の年齢もさまざまです。みなさんがそれぞれの場所で、それぞれの役割をもち活躍していることと思います。この座談会にも世代も職業も異なる卒業生に集まっていただきました。

座談会のテーマは「心理学部のこれまでとこれから」です。「心理学部のこれまで」については、授業や学生生活など大学時代を振り返ってもらい、それが現在の仕事や生活にどう活かされているのかを話してもらいました。「心理学部のこれから」については、大学時代の体験を踏まえながら今後の心理学部に期待することや20年後の将来像について話していただきました。

今回の企画は、卒業生にとっては大学時代を懐かしんだり、自分のこれまでを振り返ったりする機会になるように思います。在学生や受験を考えている高校生にとっては、大学での学びや将来の仕事のモデルの一つを提供する機会になるかもしれません。私たち教員にとっては、これまでの教育の成果を省みて、これからの心理学部の在り方を考える貴重な機会になりました。

卒業生のみなさんの言葉が、これを目にするみなさんの心に伝わることを願っています。

グループA参加者



野口 修司さん

臨床心理学科
2005年度卒
勤務先
香川大学医学部臨床心理学科
大学教員として心理学の教育に携わりながら、カウンセリングなどの臨床実践も行っている



内海 岳さん

臨床心理学科
2012年度卒
勤務先
藤田観光株式会社
ホテル業を中心とした企業で、フロント業務や営業企画を経て現在は人事部に所属している



古内 愛美さん

臨床心理学科
2017年度卒
勤務先
株式会社 バイク王&カンパニー
事業運営に関心を持つようになり、現在は流通サービス業の企業に勤務している



高安 依純さん

対人・社会心理学科
2016年度卒
勤務先
学校法人 立正大学学園
立正大学を卒業後、立正大学に就職して経理を担当する部署に勤務している

2021年9月19日 13:00～15:00／オンラインにて実施

参加教員：田村英恵・八木善彦・佐藤秀行

心理学部の思い出 卒業生座談会

相談や支援をすることが目標として入学した人もいますね。入学するきっかけは、原動力にはなっていないんですけど、それで将来が決まるわけでもないってことですかね。きっかけはなんであっても、心理学を学んでよかったなとは思っていますよね。

心理学部での学びで 印象に残っていることは？

最先端かつ身近な内容を学べるカリキュラム

内海 私はカウンセリングを学びたいなっていうふうに思ってたんですが、今、思い返して印象に残っている授業が二つあって、一つが「心理療法」で、カウンセリングの傾聴、聴くときの姿勢とかを学んで、今の仕事でも生きてるなって思います。二つ目は、上瀬先生の「ステレオタイプの心理学」で、ジェンダーとかLGBTについて今でこそ当たり前になっていることを、今から10年ぐらい前の大学生の時に学べてたっていうのはすごく大きいですね。

高安 対人・社会心理学科の授業はどれも自分がやりたいって思ってた内容でおもしろいなって思ったんですけど、特に興味を持ったのが八木先生の「消費者心理学」でした。八木先生のゼミに入って、2年間、消費者心理の勉強をしました。物を買うっていうのは、別に心理学を学んでない人でも当たり前に行なってることだと思うんですけど、そういったことが心理学っていう分野で研究されていることが衝撃でした。それに心理学を学んでから、私も物を買う時にコントロールされてたのかなとか考えるようになったし、学べば学ぶほど、結構考えられて商品が作られてるんだとか考えるようになりました。

人生を左右する先生との出会い

古内 印象に残った授業を絞るのは難しかったんで

立正大学心理学部に 入学したきっかけは？

入学したきっかけはさまざま

野口 立正大学を初めて知ったのは、当時、心理学系のテレビ番組に齊藤勇先生が出ていらしかったからです。その時のお話が興味深くて、肩書が立正大学教授となっていたので、たまたま立正大学を知りました。新しいもの好きなので、1期生ということが何かおもしろそうだなってすごく感じて受験をしました。

内海 僕は高校の時に部長をやってたんですけど、人の悩みを聞くことが多かったんですね。それで、カウンセリングに興味を持って、臨床心理士という仕事にも関心があったので、大学では心理学を勉強しようと思ってました。「心理学部」というのが他の大学には全然なかったこともあって立正大学を選びました。

高安 私は高校生の最初の頃は大学で学びたいことがみつかりませんでした。高校3年生の夏ぐらいに、ようやく身近な人間関係とか、コミュニケーションとかに興味があると気がついて、それからいろいろ大学を調べていくうちに、立正大学の対人・社会心理学科を知りました。カリキュラムに人間関係とかコミュニケーションを学べる授業がたくさんあることを知って進学を決めました。

古内 高校在学中に精神疾患を抱えていたり、子どもと死別してしまったりした身近な存在がいたので、その方の力になりたかったんです。でも、ただ側にいるだけでうまく支えることができなかったなと感じていました。人の心に関わる正しい知識を体系的に学んで、つらい状況にある人たちの役に立てるような存在になりたいなと思い、臨床心理学科を選びました。

野口 なんとなく興味を持った僕みたいな人も、人の



これまでとこれから 2002年—2022年

すけども、中田先生の「臨床心理学概論」ですね。中田先生の話については、今後の人生でも絶対忘れないといつも思うんですけど、毎回授業の最後に感想や質問を書いて提出するんですね。その質問や感想を次の授業でみんなに共有をしてくれていました。同じ授業を受けて、同じことを習っているけど、こんなに人って感じ方が違うんだとか、質問に対して先生なりの回答もしてくださるという感じでした。心理学って学術的に整理されている部分はあるけれども、明確な答えがない場合もあることが多いと思います。そのようなときに先生から「皆さんはどう思いますか？」って問いかけられて、一緒に考えさせてくれるというか、テキストだけでは完結しないような学びの機会をいただいて印象に残ってますね。生きた学習ってこういうことを言うんだらうなって思っています。

野口 心理学部の学びでよかったと思うことを一番にあげるとしたら、正直、授業の内容というよりは人との縁なんですね。若島先生の授業を受けて非常に興味を持って、そのままゼミに入って、修士課程も博士課程も若島先生の元で勉強することになりました。今の自分があるのは、立正大学で今もお世話になっている先生と出会ったおかげであるというのは間違いなくて、その縁を一番にあげざるを得ないなっています。

内海 古内さんの中田先生の授業の話もそうですが、授業の内容だけではなくて先生の人となりというか、授業の進め方とか、学生との関わり方で強く印象に残ってるのかなっていうのを思ったんですけど。

古内 何か感情の記憶みたいな感じですかね。

内海 昔のことを思い出すと、やっぱり人との出会って大事なんだなと思いますね。

野口 本当に。始めからその先生がいるという理由で入学したわけではなかったのが、縁とか運とかですね。

高安 対人・社会心理学科の先生方もみんなすごい親身になって指導してくださったなと思います。研究室に質問に行っても、丁寧に説明してもらえました。

心理学部で学んだことは 仕事に役立っていますか？

人とかわるどんな仕事にも使える心理学

内海 僕は心理学とは関係ない世界で働いてはいるんですけども、必ず人とのつながりっていうものはあるので、後輩を指導するときに生きてるなって感じます。カウンセリングの傾聴する姿勢とか、共感する姿勢とか、後輩の話を聞くときに役立っているなと思います。あとは、営業企画の部署にいた時に、ホームページやポスターを作る機会もあったんですけど、その時は「消費者行動の心理学」のノートが手元にほしいと思ったし、もうちょっと学んでおけば何か応用できたのかなとか思ったりしました。仕事の中で心理学と全く関係なさそうな部分でも、大学で学んだことのエッセンスや、ものの見方みたいなものは、今も生かされているのかなって思います。

高安 私は、やっぱりコミュニケーション能力が大学生活でついたなって思います。もともと人前で発表したり、初対面の人と話すのは得意ではなかったんですけど、プレゼンの授業とか、ゼミでの発表があったり、調査の依頼で学内の全然知らない人にも調査を依頼したりすることがあって、人前で話すのは、昔ほどは抵抗がなくなりました。職場だけでなく、日常生活でも役に立つことだなって思うので、4年間学んで良かったなって今でも思っています。

古内 心理学って非常に汎用性の高い学問だなと思っていて、目の前の1人の人のために何ができるのかっていう姿勢っていうのを学部で4年間で学んで、そういう意識を持って仕事にあたれる点が一番よかったか

なと思っています。それを基本姿勢として、相手にとって望ましいコミュニケーションの仕方とかを選択することもできますし、人に寄り添いながら理解したり、共感しやすくなる場所があるかなというところですね。1on1など、今、いろんな企業でもやられているかと思うんですけども、信頼関係を築くという点でも仕事に活かしているかなと思っています。

野口 僕は心理学を教えることを仕事にしているので、そうではない方々にとって、心理学っていうのは具体的にどういうふうに役に立ってるのかなっていう話をお聞きするのをすごく楽しみにしていました。心理学科以外の学生に一般教養としての心理学を教えたりしているんですけど、そのなかで「心理学って何の役に立つんですか？」って聞かれることもあって、みなさんの話を踏まえると、人とかかわり方の技術的なことだって役に立つし、人の役に立つための心構えの部分でも重要です、人とかかわるどんな仕事にだって使えるんだよってというのは、言っていきたいと思います。

内海 「サービス業やりたいです」っていう人には、ぜひ心理学を勉強しといたほうがいいって言っといたほうがいいですよ。お客さんからクレームといただきます、お言葉をいただくときに、お客さんは何を伝えたいんだらうとか、今どういう状況なんだらうみたいなことを考える視点にはなると思うので、そこはすごく活かしていると思います。

高安 そうですね。サービス業はもちろん心理学を使うなって思いますし、サービス業じゃなかったとしても、一緒に働いている人とかかわっていく中でも使えるなとは思っていますね。

野口 こんなに使い勝手のいい学問はないかもなあと思うぐらいですね。

心理学部の思い出 卒業生座談会

心理学は人生の引き出しを増やしてくれる

高安 高校までは心理学を学ばないので、心理学ってどんな学問なのか知らない人って多いなって思うんですよ。

内海 高校生だったら、恋バナのネタにされるぐらいじゃないですか。吊り橋効果みたいな。でも、心理学ってそういうものだけじゃないんだよって、言いたいですね。

野口 学部の頃の自分にとって、心理学部での学びの何が一番大きかったかっていうと、心理学に対する興味を大きくしてくれたことなんじゃないかなって思っているんです。学部の頃に学んだ科目名とかテーマとかも少しは覚えてはいるんですけど、「心理学っておもしろいんだ」ととても興味を引かれたことが今の仕事につながっているの、すごく大きなことだと思っています。

古内 心理学を学ぶと、何か人生の引き出しみたいなものが増えますよね。

野口 本当に自分の生き方に影響しますね。心理学は心理士にならないと使えないとか、役に立たないっていうのは全然なくて、仕事だけではなくて、生きる上でも結構使えますよってみなさんの話を聞いていて思いました。

これからの心理学部に 期待することは何ですか？

野口 香川大学の臨床心理学科って一学年の学生が20人なんですよ。立正大学って一学年約250人じゃないですか。香川大学の12、3年分なんですね。香川大学が12、3年かけて育てようとしてる人数を、立正大学は1年で育てているんだなと思いました。そうすると、やっ



これまでとこれから 2002年—2022年

ばり社会に対する影響っていうのも、すごく期待できる部分が大きいんじゃないかなって思うんです。立正大学の心理学部に期待することとしては、一度にたくさん心理士候補、ないしは心理学を学んだ人を社会に輩出できるわけですから、1人でも多くの優秀なとか、心理学をちゃんと学んで社会に活かせる人たちっていうのを輩出してもらって、社会全体の中での心理学の需要を高くしてってもらいたいということです。

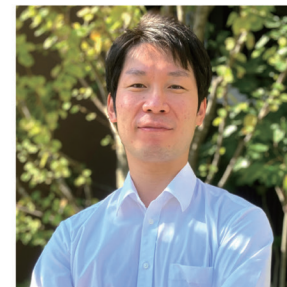
高安 オープンキャンパスとかで大学生に聞く機会があったりだとか、授業の質問に行ったらすごい先生が親身に教えてくださったりだとか、立正大学の心理学部ってそういう環境なんだっていうのを、私は入学してから知ったんですけど、そういう環境はこれからも継続していただけたらなって思います。あとは、自分にとって心理学部で得た出会いが、今でも自分の支えとなっています。同級生だけでなく、先輩とか後輩とかともコミュニケーションを取る機会が多くて、感謝しているので、コロナ禍だとなかなか難しい部分もあると思うんですけど、そういったコミュニケーションを取る機会がもっとあったらいいのかなと思いました。

古内 もう結論なんですけど、このまま変わらずにあってくださいという一言に尽きるかなとは思っています。どの先生方も本当に忙しい中、嫌な顔せず、しかもプラスアルファの内容を返してくださったりだとか、学ぶ意欲を育ててもらえる環境であったりだとか、整っていたなと思っています。支援が必要な学生にはそれに見合った対応もしていただけるっていう部分も目にきてきますので、どうかこのまま温かい心理学部のままでいていただければと思っています。

内海 デジタル化が進んでいて、人との距離感っていうのが今まで以上にずっと遠くなってきてるなっていうことを思うんですけども、人とのつながりの大

切さだったりとか、環境に順応して生きていかなくちゃいけない中でも、メンタル的な強さを育ててあげられるような授業というか考え方を、学生たちに身に付けさせてあげてほしいなって思います。それから、みなさんの話を聞いていると、心理学部が学生に寄り添って、学生をケアする環境でもあったんだなと感じたので、今後もそういった環境であってほしいなと思いました。

グループB参加者



水崎 光保さん

臨床心理学科
2006年度卒
勤務先
東京都江東児童相談所
病院や教育相談での心理士を経て、現在は児童心理司として勤務している



吉沢 瞳さん

臨床心理学科
2017年度卒
勤務先
国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター病院
国立の病院でカウンセリングや心理検査の実践を行っている



在原 克彦さん

対人・社会心理学科
2014年度卒
勤務先
NECソリューション
イノベータ株式会社
システムエンジニアとして、システム設計などに携わっている



奥野 玲央さん

対人・社会心理学科
2018年度卒
勤務先
千葉県庁
千葉県の心理職で、現在は児童心理司として勤務している

2021年9月25日 13:00～15:00／オンラインにて実施
参加教員：八木善彦・佐藤秀行

心理学部の思い出

卒業生座談会



大学時代どんな学生生活を 過ごしていましたか？

他学部の学生や社会人の学生など さまざまな人との交流

吉沢 私は、橘花祭実行委員会に入っていて、リーダーみたいな役職になった時に、今回はもっと人が集まるような企画にしようとして新しいことにチャレンジする機会がありました。周りのみんなと夜遅くまで話し合っていて、悩んだ経験が学生らしくて楽しかったなって思い出に残ってます。

水崎 サークルってお祭り感というか、仲間で何か作っていく感覚があって、すごい学生の醍醐味だなって感じはありますよね。

吉沢 サークルに入っていると他の学部の友達もできるし、先輩も後輩もいるし、自分の友人関係がすごい広がったと思います。今もその人たちと連絡取って会ったりとか、つながりも残ってるので、今はコロナなのでちょっと残念な気持ちになる人もいっぱいいますよね。

水崎 僕も月並みですけどやっぱり仲間がいたなっていうのが、すごく印象的だったと思っています。当時は夜間主っていうコースがあって、自分は夜間のクラスだったんです。夜間主には社会人の学生の方もすごく多くて、夜の授業が終わったあとにお話を聞く時間がありました。授業は7限までだったので、それを8限とか呼んでいて、同年代の若い人たちだけでは味わえないようないろんな話を聞けたことが良い思い出になっています。みなさんすごい勉強熱心で、すごい刺激を受けて、いい仲間めぐり会えたなって思います。



これまでとこれから 2002年—2022年

先生の研究室でおしゃべり

在 原 私は人見知りで、大学で友達できるかなって不安だったんですが、最初にクラスがあったことですごい安心感があって、救われたなと思っています。クラスっていう括りで同じ講義とかも受けてたので、それで仲良くなって、今も関係が続いてるので。

奥 野 私も地方から出てきて、スタートをしくじっちゃうと一人ぼっちになる不安を抱えていたんですけど、クラスっていう小さな集団にまとめていただいたことで、すこし話しかけやすくなったなあとと思います。大学って自分1人で学んでいく場っていう印象が強かったのが、意外といろんな人と一緒に学ぶとか、先生方との距離もすごく近くて、思った以上に相談しやすかったりするので、学生生活の中では印象に残ってます。先生の研究室に入り浸っちゃったりとか、それでも許してもらえるような感じだったのはすごく良かったなと思ってます。

吉 沢 ありがたい環境ですよ。研究室ではどんなお話をされてたんですか。

奥 野 勉強のこととかも話すんですけど、本当に雑談とか、映画の話してたりとか、普通に友達と話しているような感じで先生方と話してみたいな感じで、みんなでわいわいすることが多かったかなと思います。

水 崎 自分も結構研究室にいましたね。授業のお手伝いをしたり、実習のことを相談に行ったついでにいろいろお話を聞いたりしていました。先ほど、先生との距離が近いとおっしゃってたと思うんですけど、すごくよくわかると思います。先生方はこちらが尋ねるとすぐく答えてくださるというか、一学生としてはすごくありがたかったなって思っていますね。

今の仕事に就いた きっかけは何ですか？

奥 野 もともと子どもにかかわるような仕事をしたいと思っていましたが、じゃあどんな仕事がいいのかはなかなか見つからなかったんです。そんなときに大学の企業説明会があって、そこに千葉県庁の心理職の方が来ていて業務について説明してくださったんです。それで、公務員で心理職っていうのがあるんだっていうことを初めて知って、しかも子どもにかかわるような業務なんだと知って興味を持ちました。大学の時に入っていたボランティアのサークルでも、さまざまな事情を抱えた子どもたちとかかわることが多かったので、普段の生活の中で困ったことがある子どもたちのサポートをできる仕事がしたいなって思ったときに、いろんなものがつながっていった今の仕事にいきついたのかなと思っています。

水 崎 大学院を出るときは、奥野さんと同じで子どもの支援をやっていききたいなと思っていて、教育相談と、医療機関で仕事をしていたんですね。お子さんは成長していくし、病院でも良くなっていく人は良くなっていくので、すごくやりがいはあったんです。ただ、仕事をしていく中で、大人の方でいわゆる重症例と言われている人たちは、生きていくことが精一杯というか、自分の生きる価値を見つけられないというか、なんとか日常を生きているっていう人たちもいました。そういう方たちの支援をしていると、もっと早い時期に支援が行き届いていたら、もしかしたらすこし違ったんじゃないかなって思うこともあったんです。教育相談とか病院っていうのは、主体的にニーズがあって来る方たち、ちゃんとヘルプが出せる方が対象です。そういう方の相談には乗りやすいけど、「困ってます」って言えない人たちにも何か手を差し伸べていかなければいけないんじゃないかなって思うようになりました。それで、こちらから能動的に介入していくとか、支援していける機関は児童相談所なのかなって思って、途

中で転職しました。

吉 沢 私は、今病院なので、困り感を持った上でこちらに来るっていうパターンのところなんですけど。私は、親戚が病院に入院している時に、入院している本人がやっぱりしんどいので怒りや悲しさも出てきたりして、身内に強く当たることがあったんですけど、看護師さんにはそういう思いをすぐく話してたんですよ。その時の看護師さんのかかわりを見てると、本人に寄り添っていろいろ優しくお話を聞いてくれていて、その姿を見て病院で働く心理面で支えていける専門家になりたいなって思ったのがきっかけです。

在 原 大学院では認知心理学系の実験をしていたんですけど、その時に実験用のプログラムを自分で組むっていう機会があって、そこからプログラミングに興味を持って、職業としてのシステムエンジニアに最終的に至ったっていう経緯があります。研究の分野としても顔の認知系の研究をしていて、今の会社は顔認証系のシステムを取り扱っているところで、自分の研究とも合致する部分があると思っています。思いもよらないキャリアパスだったんですけど、最初に幅広く心理学を学べて、そのなかから自分の関心を探していったので、こういう道が開けたのかなって思いますね。

心理学部で学んだことは 仕事に役立っていますか？

先生とのかかわりが 今の仕事への態度として根付いている

水 崎 ゼミを担当していただいた先生との出会いが大きかったと思っています。心理臨床の姿勢を大事にされてきた先生で、理論とか技法とかはもちろんなんですけど、それだけじゃなくてクライアントとの関係の中で起きてることが一体どういうことなのかとか、相手に興味を持って耳を傾けて、その人の人生を読み取っ

心理学部の思い出 卒業生座談会

て、想像していくという基本的な姿勢を学生の頃から丁寧に教えていただけたと思っています。人を理解するっていうことは結果的には社会を理解していくっていうことになるから、自分の生き方にも通じていくものもあるのかなって思っているし、今の自分の仕事には大きいかなって思いますね。

吉 沢 私も近いところがあって、心理士として目の前の人を尊重する姿勢とか、どういう人生を歩んできて、だから今どういう思いなんだろうなって想像することを教えていただいたなって思ってます。授業でも教わったかなとは思いますが、ゼミだったり、先生とのかかわりとかで、「そうか、あなたはこうでこうだからこういうふうに悩むんじゃないの」、「あなたはこういうところがあるからね」みたいに、目の前にいる学生のことをすごく大事にして、いろいろ教えてくださる姿勢が自分の中に根付いていったって学べたかなって思います。

水 崎 先生方がこちらが投げかけたものに真摯に答えてくださるっていうところがあって、自分が先輩の立場になって若い方と関わるするときにも、何か力になろうと思うことにつながっているようにも思います。教えられたからできるっていうより、ちゃんと経験させてもらったからできるっていうのが大きいんだろうなと思っています。

大学での学びは役に立つけど その後も学び続けることが必要

奥 野 座学で学んだことも使う機会は多いんですけど、学部で学んだことだけでは仕事はできなくて、その後もいっぱい学習する必要があると思っています。でも、大学で学んだ、人の行動の背景を考えることは日常生活でも生きていますかね。何かに怒ってる人を見かけたときに、「何かちょっと嫌だな」という気持ちもあるんですけど、「なんでその人は今そこで怒っ



これまでとこれから 2002年—2022年

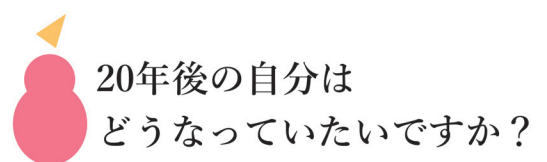
てるんだろう」っていうのを考えたりとかして、何か解決できるわけではないんですけど、ただ嫌だなんて思うだけじゃなくて、「どうしたんだろうな、何かあるのかな」っていう目で見れるようにはなったのかなっていう気はしています。

水崎 心理学を学ぶと背景とか、何がこの人に起きてるのかなとか、ちょっと違った視点が出てきますよね。

在原 僕は統計とか社会調査とかデータ分析系の知識ですかね。正直、心理学部に入るまではイメージがなかったです。でも、統計の授業とか、社会調査の実習もあって、アンケートを作っているようなデータを収集したり、その結果から考察したりするスキルが身についたのかなと思っています。IT業界ではデータを使って分析することが大事なので、仕事のなかで活きているなって思います。ただ、一緒に仕事をしている人はばりばりの理系でがっつりプログラミングを学んできた人がそろっているんで、そのなかで自分が生きる道を探しながら、たくさん知識を入れながら、いろんなところにチャレンジしている感じです。

吉沢 そういう中に心理を学んだ人がいることでできることがあると思うんですけど、どうですか？

在原 プログラミングを主にやってきた方は、人に伝えるのが得意じゃない方も多いので、部門内の代表としてプレゼンすることを任せていただいたりとかしますね。そこは大学の時に学んだことが活かされて良かったなって思うところですね。



先輩をモデルにしながら成長していきたい

在原 職業柄になっちゃうんですが、技術革新とい

うか、IT技術がどんどん発展していく中で、それに乗り遅れないようにしたいですね。そういった技術革新の中でも、心理学を学んできた人間として、心は忘れちゃいけないなって思っていて、ITと心理学をうまく統合しながらできることを漠然と考えています。

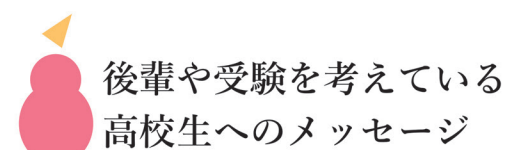
奥野 まずはもっといろんな知識をつけていきたいなっていうのはあります。学部の心理学の知識だけではやっぱり限界があるなっていうところはあって、心理検査なども新しく更新されていったりするので、ずっと学んでいく必要はあると思います。それにいろんな知識がないといい相談相手になれないと思うので、まずはこの5年、10年とかっていう間はしっかり、もっと学んでいきたいって思います。

水崎 僕も全く同じで学びは一生だと思っています。でも、年齢を重ねていくと、1人で出会えるクライアントの数って限られていると考えるようになってきて、そうすると下の世代の方を育てていくとか、より良い支援と一緒に考えていける仲間が増えるとか、そういうことにすごく意義を感じるようになりました。いつのタイミングかわからないんですけど、将来的には後進育成をしていきたいと思ったりしますかね。

吉沢 20年後、私は46歳ぐらいなんですけど、今職場の先輩方でそれくらいの年代の方は、後進を大事に育ててくださいますし、知識もどんどん吸収してたくさん蓄えてるなって印象がすごくあるので、私も先輩をモデルにしてそういうふうな人になれたらいいなって思ってます。私もまだ全然足りてない部分が多すぎて、そんな存在になれるかなって思うんですけど、自分なりにできる努力をして、周りに心理士もたくさんいるので、みんなで協力しながらやっていけたらいいなって思ってます。

在原 僕も10年先輩とかこの人の域にいつになったらなるんだろうみたいな思いも日々あったりします

が、身近に目標にできる人がいてすごくありがたいなっていうのは一方で思いますし、自分がそれを伝えていけたらなみたいなのところもよく思ったりします。



吉沢 私たちはサークル活動もして、授業も対面で受けて、研究室にも行けて、何かいろいろ楽しくて、コロナ禍の今とは全然違う環境だったので、今の学生さんは私には想像できないつらさとか、どこに向けたらいいかわからない怒りとか、悲しさとかあるだろうなっていうふうに思います。そういう中で頑張ってる授業を受けて、友達ともかかわって、今の学生のみなさんって本当にすごいなって、めちゃくちゃ尊敬していますというのがまず1つ目です。なので、立正大学心理学部がこれから30周年とか40周年とか50周年とか積み重ねていったときに、きっと今度はその年代の卒業生がたくさん出てくると思うので、そういうときに今度はぜひ卒業生の立場として今のこのコロナの大変さだったり、コロナの中だからこそできたこととか、良かったことを私たちにも教えてほしいなって思いました。

在原 私は漠然とした理由で心理学を選択したところがあるのですが、学んでみると臨床心理学科も対人・社会心理学科も自分の興味に何かしら通ずるテーマを見つけられるというか、4年間通して学ぶことができると思うので、まずはおもしろそうっていう興味から入っていただけるっていうのがいいのかなって思います。そこから、思いもよらなかった統計の知識とか、プレゼンのスキルとか、そういうことをちゃんと学んでいけて、社会人として就職するにしても、大学院に進学して専門的な道に進むにしても、いろんな方面に道は伸びてるのかなと思います。カリキュラムもすごく充実しているので、学びながら自分の道を見つけていってください。

心理学部の思い出 卒業生座談会

奥野 もともとこういうものに興味がありますっていう人もいれば、多分、何に興味があるかまだ決めきれてないみたいな人もいるかなと思うんですけど、立正大学心理学部はいろんな授業を受けてみて、自分の興味に気がついて学んでいける場かなって思ってます。そういうことができるのはカリキュラムが多い立正大学の強みかなって思うので、そういう機会をうまく活かしながら、自分の興味・関心を見つけてもらえればいいかなって思ってます。

水崎 ここにいる皆さんも共通してそうだったなと思うし、大学生ならではのことだとは思いうんだけれども、やっぱり学びに主体的であるっていうことを、大切にしていただけるといいのかなって思います。学生が研究室のドアを叩いたらきっと先生方は応えてくれると思いますし、先生方とのかかわりから学びをつかみとっていくっていう姿勢を持っていると、学生生活はよりよい彩り豊かなものになっていくと思うので、みなさんの学びが深まっていくことを期待をしています。立正大学心理学部はきっと、学生の思いに応えてくれる場所だと思うので、ぜひ立正大学へ来てください。



これまでとこれから 2002年—2022年

卒業生からの祝辞

ここでは、心理学部が開設20周年を迎えるに当たり、臨床心理学科8名、対人・社会心理学科6名の卒業生から頂いたお祝いのメッセージをご紹介します。学生時代と現在のご様子がわかるお写真をそれぞれ一枚ずつ、お送りいただくようにもお願いいたしました。

メッセージをお寄せいただいた卒業生は各学科ともに、支援の現場や、教育・研究といった形で卒業後も心理学との関わりを持ち続けていらっしゃる方から、現在はより一般のご職業に就かれている方まで、様々な形で活躍されています。大学時代の思い出と、現在のご活躍の様子を交えて、お祝いのお言葉をいただいています。

頂いたメッセージを拝見しながら、卒業生の方々のご健勝とご活躍を喜ばしく感じるとともに、学生時代に対する素直な感想について、新鮮な気持ちで受け止めさせていただきました。学生生活の中で何を不安に感じ、ストレスと感じたのか、あるいは学部の学びの中で、何について興味深く感じ、今でも記憶に残っているのかというお話は、教職員にとっては大変貴重な情報となりました。

この場ではご紹介できなかった方々も、ぜひお祝いメッセージをご覧いただき、大学時代のご友人や先生方との旧交を温める契機としていただければと考えています。



井古田 大介さん

臨床心理学科
2006年度卒

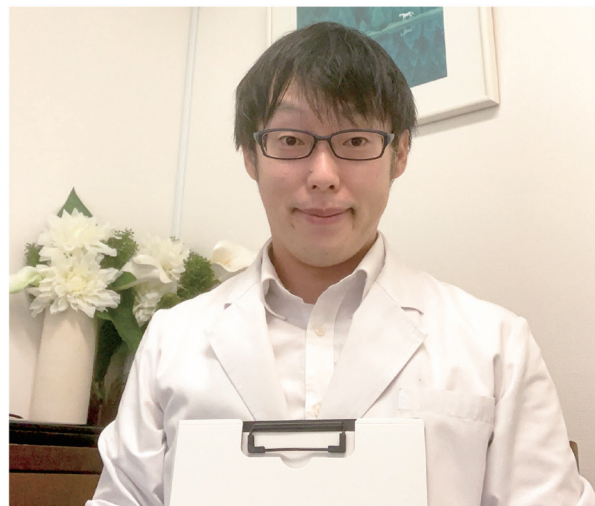
このたびは、心理学部開設20周年おめでとうございます。

4年間の学生生活では、昔から興味があった心理学について広く深く学べる貴重な機会を頂きました。特に、大学3年次のゼミナールでは、学問だけでなく将来生きていくために必要な技術を教えていただきました。

また、同級生にも恵まれました。夜遅くまで心理学について語り合い、勉強会で意見交換したことは良き思い出です。今でも同級生には、仕事や私生活でも大変お世話になっています。

現在は、病院や福祉施設でカウンセラーとして勤務しつつ、講師として学生に心理学を伝える日々を送っています。大学生活で得られた知識や経験を少しでも現場に生かせるよう尽力しております。

最後に、一卒業生として、今後心理学部の益々の発展を祈念しております。



石井 正博さん

臨床心理学科
2006年度卒

立正大学心理学部設立20周年、心よりお喜び申し上げます。私が立正大学に入学したのは心理学部設立2年目でした。入学当初は、前例が少なく不安もありましたが、その分学生と教職員の方々との距離も近く大変お世話になりました。また、当時は働きながら学ぶ社会人学生が多く在籍しており、大きな影響を受けました。

私事ですが、卒業後は一般企業に勤めたり、大学院で再度お世話になったりと紆余曲折の後、現在は、高齢・障害・求職者雇用支援機構のカウンセラー職として、障害のある方の就労支援と向き合っています。その支援業務においては、進路選択や就労場面で、大変厳しい状況も受け入れなければならないことが多くあります。とはいえ、今振り返ると私自身も、多くの迷いや躓きに苦戦した経験、支えとなる人々との出会いが自分を育ててくれたものと感じています。在学生の皆様は、コロナ禍というこれまでにない状況下におかれ、不安やご苦勞の最中にあると思います。しかし、こうした状況でも、大学での日々の学びや頑張り、出会いが、将来の皆様の糧となることを願っています。

最後になりましたが、立正大学心理学部の益々のご発展、及び教職員、学生の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈りしております。



南 貴子さん

臨床心理学科
2006年度卒
心理学部同窓会前会長

心理学部20周年おめでとうございます。

私は臨床心理学科の2期生として入学しました。

新しい学部でしたが、1期生である意欲的な先輩、同期に恵まれ、素晴らしい先生方に教えて頂き充実した4年間で過ごすことが出来ました。

私たちの頃は社会人学生の方も多く、年齢や環境が全く異なる人たちと色々な話ができる機会にとっても恵まれていました。

結局、私は心理職の道には進みませんでしたが卒業後も同窓会メンバーとして学部に関わらせて頂いており、20周年という言葉に自分でもびっくりするくらい大学に長く関わっているなあ正直驚いております(笑)。

この20年の間に学科も増え、先輩、同期だけでなくたくさんの後輩たちがいろんな道に進んでいきました。

別の大学講師となりゼミの先生と共同で論文を発表した同期、スクールカウンセラーとして不登校に悩む子供たちに向き合っている先輩。

一般企業に勤めて子育てを頑張っている、デザイナーとして働いている仲間もいます。

しかし、どこに行ってもどの道に進もうと心理学部で学んだことは無駄になりません。

心理学は常に人と寄り添っているものです。

そのことを学ばせてもらったことに感謝いたします。

そして、30年40年とこれからも新しい後輩たちにとって希望を持って学べる場であり、新しい人との出会いの場として続いていくよう、陰ながら応援しています。



これまでとこれから 2002年—2022年



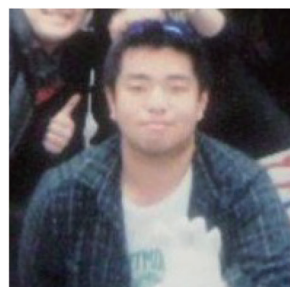
関 舞子さん
臨床心理学科
2015年度卒

この度は、立正大学心理学部20周年をお迎えされましたこと、誠におめでとうございます。

また在校時には、沼先生を始め、諸先生方の熱心なご指導にも改めて感謝申し上げますとともに、この日を迎えられたことを卒業生として、改めてお祝い申し上げます。

在学中には、ゼミの中で様々な体験をさせていただきました。中でも、学部時代に初めて心理検査の体験をさせていただいたり、実際に箱庭療法を体験させていただいたことが、印象的です。さらには、沼先生の学会のお手伝いにも参加させていただき、大学時代の大変貴重な経験もさせていただきました。立正大学の心理学部に入学できて、沼先生のゼミに入れて卒業できたこと、本当に嬉しく思います。

立正大学心理学部の新たな飛躍の出発点とし、今後の益々のご発展を心から願いお祝いの言葉といたします。



川島 航さん
臨床心理学科
2010年度卒

この度は心理学部20周年を迎えられたとのこと、おめでとうございます。

私は今横浜市の生活支援センターで相談員をしています。そこで学生時代の経験や講義がとても役に立っていると思っています。

ひとつは個人を先入観なくリスペクトできることです。1年生の時、現役生、浪人生、社会人学生など様々な人と学びのモチベーションが異なるなかで学んだことで、先入観を持たずに関われるようになりました。もうひとつはカウンセリングの講義で、毎回ロールプレイを行い傾聴する力を養えたことが、相談など受ける上でとても役立っています。

学生時代の思い出は、ゼミが印象に残っていますが、特にゼミ合宿が一番思い出に残っています。3年生の時は上級生とロールプレイを行い、4年生の時は箱庭を行い、夜は皆で朝まで語り合いました。担当の山本先生とは、歴代のゼミ生のなかで一番話をした自負があります。

心理学部の益々のご発展を心から願っております。



白川 佳央里さん
臨床心理学科
2011年度卒

この度は立正大学心理学部設立20周年おめでとうございます。

卒業して10年が経ちますが、今でもよく大学時代のことを思い出します。

専門的な知識を学べる授業は興味深く、学ぶことが楽しいことを知りました。また、卒業論文を通し自分の課題に向き合い、当時は大変だということもありましたが、今となっては人間的に成長させてくれたものと思っています。そして、温かく見守ってくださったゼミの先生、一緒に学んだ仲間などたくさんの縁にも恵まれました。今でも交流があり、相談に乗ってもらうなど、公私ともに支えられています。

現在、私は臨床心理士として精神科や学生相談でカウンセリング業務を中心に、心の支援に携わっています。心理学部で培った知識や経験、学びの姿勢、人との繋がり、すべてが私の基盤となっています。

最後に、今までの学びと出会いに感謝の気持ちを込め、立正大学心理学部の益々のご発展を祈念し、お祝いの言葉とさせていただきます。



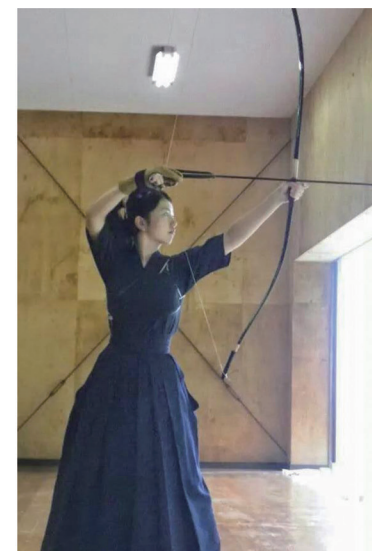
伊久見 茉優さん
臨床心理学科
2013年度卒

立正大学心理学部が20周年を迎えられたとのこと、お祝いを申し上げます。

『経験してみる』これは私が学生の時から変わらないモットーです。大学時代は今しかできない事をやろうと、教職をとり、体育会の部活に所属していました。また、学部の掲示場で見つけたチラシをきっかけに2年間江戸川区の不登校の子の支援を行い、ゼミでは永井ゼミ初のゼミ合宿を有言実行しました。とにかく休みのない日々でしたが、とても充実した、悔いのない学生生活だったと言い切れます。

社会人になった今でも、鬼ごっこサークルに入り運営まで携わったり、友人達とキャンプをしたり、日本酒に嵌まり、蔵に行ってみたりと色んな経験値を増やしています。仕事においては全く知らなかったコーヒーについて農園など生産過程から一杯ができるまでの過程を深く知ることができ、その魅力に惚れ込みました。

心理学部在籍中やこれまでの多くの経験を活かして楽しかったと言える人生を目指していこうと思います。心理学部の一層の発展を心より祈念いたします。





これまでとこれから 2002年—2022年



平田 智行さん
吉田 響平さん
井上 亜紗美さん
臨床心理学科
2016年度卒

心理学部設立20周年を記念してお祝いを申し上げます。私たちは今、それぞれが資格を生かしスクールカウンセラー、心理検査のテスターや電話相談員として、学校や総合病院など様々な職場で働いています。

心理学部を卒業して4年程経ちますが、大学生活のことは、今でも鮮明に思い出せます。精神医学や心理アセスメント、発達心理学など幅広い領域についての授業が設定されており、様々なことを学びました。特に心理アセスメントの授業で、知能検査や質問紙、投影法など様々な検査を体験し、投影法に興味を持ったことがその後の大学院での研究や現在の仕事へと繋がっています。また、大学では先生方、先輩、同期、後輩と様々な出会いがありました。ゼミの先生には、卒業研究や論文の書き方など様々なことをご指導いただきました。卒業後も勉強会でお世話になっており、大切な出会いとなりました。

最後に、改めて心理学部開設20周年おめでとうございます。今後の益々の発展を心からお祈りいたします。



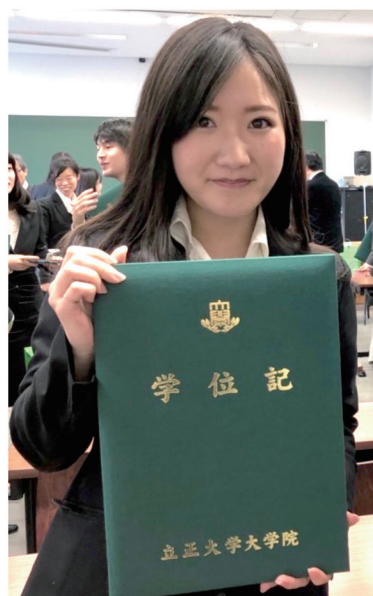
崎本 麻子さん
臨床心理学科
2015年度卒

20周年おめでとうございます。私は立正大学の心理学部臨床心理学科と心理学研究科臨床心理学専攻であわせて6年間臨床心理学について学びました。

学部時代は心理学そして心理療法の理論や実践について毎日新しい知識を学ぶことができ楽しい日々でした。大学院ではさらに専門性を高める必要がありいろいろと苦労しましたが、指導教員である佐藤秀行先生のおかげでなんとか修士課程を修了することができました。

今は都内の教育相談とスクールカウンセラーとして働いています。現場で実際にクライアントと関わるといろいろな問題に直面することがありますが、そのようなときに立ち戻るのが立正大学です。

解決策が見出せず行き詰った時には、今でも佐藤先生や他の先生方に相談に乗っていただいています。今様々なところで臨床心理士が必要とされています。このような社会のニーズに応えるためにも若い臨床家を支援するためにも、立正大学心理学部の活動がますます盛んになることを切に望みます。



永井 優美さん
対人・社会心理学科
2014年度卒

心理学部、設立20周年おめでとうございます。

在籍していました対人・社会心理学科も今年で開設10周年ということで、卒業からの年月をとっても早く感じます。

東日本大震災が発生した2011年、私達是对人・社会心理学科の1期生として入学しました。

不安と期待が入り混じった新生活のスタートでしたが大学生活は非常に充実していました。特に印象的なのは所属していた高橋ゼミでの活動です。卒業論文では、飲食店でアルバイトしていた経験から「飲食店従業員のワークモチベーション」について調査しました。実際に飲食店で勤務する方から回答を得るべく、大学周辺の飲食店へ50件程訪問し質問紙調査を実施させていただきました。思ったように回収ができず苦労しましたが、社会への一歩を踏み出すきっかけとしても貴重な経験となりました。

振り返ると、心理学という新しい知識を吸収する日々は毎日が新鮮でした。そして今でも交流のある友人とも出会え、立正大学で過ごした4年間はかけがえのない大切な時間です。

今後、益々の発展をお祈りするとともに、お祝いのメッセージとさせていただきます。



高尾 沙希さん
対人・社会心理学科
2014年度卒

この度は立正大学心理学部設立20周年、誠におめでとうございます！

対人・社会心理学科の一期生として入学し、大学院に進学後、現在も研究員として心理学に携わる仕事に就いています。今もこうして心理学に携わりたいと思い、その機会を得ることができたのは、紛れもなく心理学部で過ごして得られた知識や経験があったからこそだと思います。

心理学を実際に学んでみると非常に幅広い分野が存在し、(かなり苦しんだ!!)統計など想像もしていなかった知識を必要とするので、そのギャップと奥深さに入学当初とても驚いたことを今でも覚えています。だからこそ質問に行くといつも気軽に答えてくださるフレンドリーで熱心な先生方、一緒に乗り越えた友人の存在など、何者にも代え難い大事な人間関係を築くことができたのだと心から感謝しております。

これからも益々のご発展とご活躍お祈りしております！いつまでも卒業生や在校生の心休まるホームでいてください！





これまでとこれから 2002年—2022年



林 航平さん
対人・社会心理学科
2015年度卒

このたび、立正大学心理学部が設立20周年を迎え、記念誌が発行されますことを心よりお祝い申し上げますとともに、この記念事業を企画された関係者の皆様に対しまして、深く敬意を表します。

私は2012年に、「対人・社会心理学科」へ入学し、4年間の学生生活を送りました。入学時には、ドラマ等で観た憧れのキャンパスライフが目の前にある、と胸を躍らせた記憶があります。

「対人・社会心理学科」は当時まだ設立2年目の新設の学科であり、私も2期生でした。この学科では、心のメカニズムを学び理解を深める、というよりも、「人と人、人と社会の繋がり方」という部分に特化しており、授業内容も、身近な生活の中に溢れる行動などを心理的に紐解くようなものが多く、良い意味で硬くない「授業」という印象があり、90分の授業があっという間でした。4年間の学びを活かし、今では上司や取引先の相手方にドアインザフェイステクニックを使っています(笑)。

愉快的仲間と愉快的先生方との4年間は毎日が楽しく、卒業した今でも定期的に集まり、近況報告や、当時の話で盛り上がっています。ゼミのメンバー同士で結婚をした友人もいます。当時のゼミの先生が、「大学の友達とは一生の付き合いになるよ」と仰っていた意味が、今ではわかります。

まだまだ大変な世の中ではありますが、立正大学心理学部の更なる飛躍と心理学部に携わる皆様の益々のご繁栄を祈念して、お祝いの言葉とさせていただきます。



渕上 航平さん
対人・社会心理学科
2016年度卒

このたびは、心理学部設立20周年おめでとうございます。

私が心理学部に入学したのは、2013年のことでした。品川キャンパスでの学生生活に期待と不安を抱えながらも、心理学を学ぶことができる喜びを感じていたことを今でも覚えています。

学生生活の思い出はたくさんありますが、特に古屋先生のゼミで過ごした時間は今でも印象に残っています。研究の指導だけでなく、就職活動に対する悩みなども親身に聞いて下さり、精神的にとっても救われたことを今でも感謝しています。

私は今、農林水産省で農業保険に関する業務に従事しております。わからないことだらけの毎日ですが、充実した日々を過ごすことができています。

心理学部の友人とは今でも連絡を取っており、励まし合いながらお互いに頑張ることができています。

心理学部は先生、学生ともに優しく個性豊かな方ばかりです。今後50年、100年と益々発展していくことを願って、お祝いの言葉とさせていただきます。



玉造 伸一さん
対人・社会心理学科
2017年度卒

社会人を経て大学生になった私にとって授業や学生生活はどれも興味深いものでした。学生時代は、経済的に自立せざるを得ない状況でありハードな生活でした。

そのような状況でも国内外ひとり旅や長期のインターンシップなど刺激的な体験をし、価値観を広げて行きました。大学卒業後は、東証一部のベンチャー企業に就職し、コンサルタント営業や新規事業の立ち上げを経験をしました。その中で大学で学んだストレス心理や説得的コミュニケーションなどを無意識的に使っていたと感じています。また、後輩社員へのマネジメントでは類型論的アプローチにより、個々の特性にあった教育を行っています。大学で心理学を学んだことで自他の心理現象を理解しているからこそ自分の言動判断に自信や納得感を持てるということが多々あります。

現在は転職し別の会社でまた新規事業の立ち上げに携わっていますが、ハングリーな学生生活があったからこそ次々と新しいことへのチャレンジができていたのだと思います。

引き続き大学時代の経験を一つの糧に、楽しい人生を歩んで行きたいと思っています。



佐藤 周さん
対人・社会心理学科
2018年度卒

この度は学部設立20周年お迎えされましたこと、誠にありがとうございます。

よく「大学は人生の夏休み」と聞きますが、私はほんとにそうだと思います。遊ぶという点ではもちろんですが、あんなにも自分が勉強したいことに費やせる時間を確保できるという点に関して、わたしは社会人になって常々痛感しております。やはり社会人になってからは、勉強したいと思った分野があったとしても、思う存分勉強する時間を確保できないのが現実だと思っています。今思えば、もっと学生時代に勉強しておけばよかったなと後悔するのと同時に、ほんとにたくさん時間があったのだと実感するばかりです。ですのでこれから大学生になる人、もしくは暇を持て余してる大学生には、思う存分1人で友人とも遊ぶことももちろんですが、本当になんでもいいので、自分が興味をもったことに臆せず勉強してもらいたいと思っています。

このような状況下ではございますが、今後とも心理学部の更なる発展と、所属している学生皆様のご多幸を心よりお祈り申し上げます。





講演会・イベント・公開講座

心理学に対する 社会の期待を どのように捉えてきたのか

ここでは、本学部がこれまで開催してきたシンポジウムと公開講座について振り返りたい。シンポジウムと公開講座はともに、本学部が、その時々々の社会問題について学術研究の成果を踏まえて考察し、地域や社会にその知識と理解を還元する目的の下に行われてきた。したがって、シンポジウムと公開講座のテーマを概観することは、本学部の学術研究の焦点の推移とともに、本学部が心理学に対する社会の期待をどのように捉えていたかについて、理解する手がかりになると考えられる。

心理学部開設記念シンポジウム

本学部初のシンポジウムは、心理学部が開設された2002(平成14)年に開催された。当時の文化庁長官・京都大学名誉教授の河合隼雄氏をお招きし、「21世紀は心の時代」と題した基調講演を行っていただいた。ご講演では、20世紀の物質文明に人間の「こころ」が追いつけていない現実が、人類に深い苦悩をもたらしつつあることを指摘し、それゆえ「こころ」の研究の発展と、その成果を実生活に活かす方法の確立こそが重要な課題であることをいち早く提起された。また、基調講演に続けて、本学部の松原達哉、楡木満生、両教授に加え、岡本淳子氏、宮城まり子氏の4名の臨床心理士によるパネルディスカッション(題名:心の専門家、心理カウンセラー養成を考える)も同時に開催され、河合隼雄氏の提言を受けた議論が行われた。

2003(平成15)年度公開講座

(題名:大人・親・こどものこころの問題を考える…)

学部開設の翌年、品川区教育委員会の後援を受け、本学部初の公開講座が開催された。宮城まり子(キャリアカウンセリング)、岡本淳子(学校心理臨床)、片岡玲子(児童福祉)、小澤康司(被災者支援)の4名の臨床心理士資格を持つ本学教員が登壇し、子どもや心的外傷を受けた大人のこころの問題に対する理解を促す講演を行った。

2004(平成16)年度公開講座

(題名:現代人のこころの問題を考える)

この年に行われた第2回公開講座は、今日までつづく品川区(当時は品川区教育委員会)との共催形式を採用した最初の年となった。こうした動きは、本学部が公開講座に対し、地域に対する研究成果の還元という役割を、当初から明確に有していたことを示している。講座の主題は、現代人のこころの問題を、男女関係や家族関係といった社会を構成する最小単位にまで掘り下げて論じるものとなっていた。また本講座では、選択理論提唱者として知られるウィリアム・グラッサー博士をお招きするなど、国際的な心理学研究拠点を標榜する本学部の姿勢を内外に示すものでもあった。

2010(平成22)年度公開講座

(題名:地域・暮らし・家庭の人間関係を考える)

学部開設8年目となる2010(平成22)年度は、本学部の大規模な組織改革を翌年に控えた年でもあった。それまでの臨床心理学科単科構成から、「人と人、人と社会のつながりを心理学的に研究する」対人・社会心理学科を併設した2学科体制となることがすでに内外に告知されていた。これに伴い、本年度の公開講座では、登壇者3名のうち、2名(上瀬由美子・高橋尚也)が対人・社会心理学を専門とする本学教員となった。高橋講師はすでに世間を賑わせていた特殊詐欺(いわゆる「オ

レオレ詐欺」)などに対する心理学的な考察、上瀬教授は人間関係における思い込み(偏見やステレオタイプ)の機能と弊害といった、これまでの本学公開講座では扱われなかった日常的なテーマについて、わかりやすく解説を行った。

心理学部設立10周年記念講演会・コンサート

2011(平成23)年度、心理学部は設立10周年を迎え、これを記念した講演会とコンサートを開催した。記念講演会では鶴光代氏をお招きし、「心理臨床における動作のこころ—その意義と援助の実例—」と題したお話をいただいた。また、コンサートでは、宮崎駿監督作品「千と千尋の神隠し」の主題歌としても知られる「いつも何度でも」など、数々の代表作を持つ木村弓氏、国際作曲コンクール第1位など輝かしい受賞歴を持つ中川俊郎氏のお二人をお招きし、参加者のこころの癒しとなる楽曲を披露していただいた。

2015(平成27)年度公開講座

(題名:生活の場での消費者心理学)

この年、対人・社会心理学科が設立5年目を迎え、今日まで続く心理学部の2学科体制は安定期を迎えた。こうした情勢を反映するように、本年度の公開講座は、学部設立以降初めて、対人・社会心理学的テーマのみによって構成された。また、本講座は、品川区との共催



2004(平成16)年度公開講座
現代人のこころの問題を考える



2010(平成22)年度公開講座
地域・暮らし・家庭の人間関係を考える



設立10周年記念講演(2011年度)心理臨床における動作のこころ
—その意義と援助の実例—



2015(平成27)年度公開講座
生活の場での消費者心理学



講演会・イベント・公開講座

だけではなく、文部科学省による受託研究「連携・共同による消費者教育推進事業(代表:八木善彦)」の一環として行われており、本学部の公開講座が多様な外部組織との連携を強めていく転換点ともなった。

2016(平成28)年度公開講座

(題名:魅かれあうこころの不思議—愛と愛でないもの—)
学部開設15周年記念行事の一環として行われた本講座は、男女関係という普遍的テーマについて、対人・社会心理学と臨床心理学の二つの視点から捉え、考察する内容となった。川名好裕、米田弘枝、両本学教員に加え、大坊郁夫氏、桐生正幸氏といった著名な社会心理学者を招聘し、多様な学術的、事例的知見を交えて解説いただいた。

2018(平成30)年度公開講座

(題名:ストレスとの付き合い方)
前年の関連法案全面施行に伴い、2018(平成30)年度は、初の心理学関連国家資格である「公認心理師」の第1回国家試験が実施された年となった。こうした社会的情勢を鑑み、この年の公開講座は、本学教員田村英恵に加え、清水貴裕氏をお招きし、世代や性別を超えた関心事であるストレスとの付き合い方について、実践的スキルを交えながらご講演いただいた。また、これに先立ち、本学教員徳丸享より、公認心理師の職責



2018(平成30)年度公開講座
ストレスとの付き合い方

や、資格取得のための制度についての解説が行われた。

2019(令和元)年度公開講座

(題名:愛と正義と暴力と:過激主義の社会心理学)
この年、オウム真理教に関わるすべての裁判が終結し、極刑を含めた刑事罰が執行されている。本年度の公開講座では、我が国の安全神話を揺るがした大事件を、社会心理学者がどの様に捉えてきたのかを総括するため、愛や正義といったイデオロギーが過激化する仕組みについて、本学教員西田公昭に加え、松井豊氏、縄田健悟氏、唐沢穰氏をお招きし、ご講演・討論いただいた。

2021(令和3)年度公開講座

(題名:コロナ禍のメンタルヘルスについて考える—心的トラウマとしてのコロナ—)
2019(令和元)年12月に始まった新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大により、2020(令和2)年度の公開講座は開催できず、2021(令和3)年度は初めてのオンライン形式での開催となった。長く続くコロナ禍で、ステイホームを余儀なくされ人と人とのつながりが制限される中、多くの人が心身の不調を感じていることがわかってきた。そこで、子どもの支援・災害支援の専門家である湯野貴子氏をお招きして、コロナ禍における心身の不調のメカニズムやメンタルヘルス



2021(令和3)年度公開講座 コロナ禍のメンタルヘルスを考える
—心的トラウマとしてのコロナ—

のために日常でできる工夫についてご講演いただいた。講演では、湯野氏が日本に紹介したベッセル・ヴァン・デア・コーク博士の動画メッセージをベースに、コロナ禍はどのような点で前トラウマ的なストレス状況と似ているのか、そうした環境下にあるとき脳では何が起きているのか、それらを踏まえて人に備わる回復力を発揮するためにどのような工夫をするとよいかについてお話しいただいた。また、呼吸法や音楽に合わせて身体を動かしてみるなどの体験も行なわれた。さらに、コロナ禍では、子どもたちも大きな影響を受けていること、子どものメンタルヘルスのために必要なことも解説いただいた。講演後、沼初枝本学教員から、トラウマとなるような出来事に遭遇したときに生じる安全感の喪失、それに伴って生じる孤立と支援の際の注意点、自尊心に注目することの重要性などを解説いただき、

お二人の討論を通してさらに議論が深められた。なお、当日は講演中に参加者の皆さんにアンケートを行い、その場で結果を共有するという試みも行われた。「コロナ禍の中、自分にとっていいことはありましたか?」という質問には、「自分の健康や生活、仕事の仕方について考え直す機会になった」「人との繋がりを大切に感じた」といった選択肢に6割程度の人が「はい」と回答し、この結果を受けて湯野氏から、ストレスはマイナスな面ばかりでなく変化や成長のきっかけにもなりうるということが説明された。参加者からは、学んだ工夫を生活に取り入れていきたい、不安を感じているのは自分だけではないとわかって安心できたといったコメントをいただいた。人とのつながりが制限されるコロナ禍において、オンラインならではの方法でつながりを感じながらメンタルヘルスについて学べる貴重な時間となった。

心理学部主催講演会・イベント・公開講座

年	行事名	講演者	特記事項
2002	心理学部開設記念シンポジウム	河合隼雄 [※] 、松原達哉、榆木満生、岡本淳子、宮城まり子	
2003	平成15年度公開講座	大人・親・子どものこころの問題を考える…	宮城まり子、岡本淳子、片岡玲子、小澤康司
2004	学生企画講演会	家族支援における『ことば』の考え方	長谷川啓三 [※]
	平成16年度公開講座	現代人のこころの問題を考える	ウィリアム・グラッサー [※] 、若島孔文、岩本俊郎
2005	平成17年度公開講座	子育て・介護支援への多面的アプローチ—生涯発達支援の心理学—	片岡玲子、浪本勝年、齊藤勇
	学生企画講演会	犯罪被害者の心理と支援について	浅野晴哉 [※]
2006	平成18年度公開講座	子供の発達と特別支援を考える	山下富美代、軍司敦子 [※] 、樋口直宏、奥村智人 [※]
	平成19年度公開講座	メンタルヘルスを支援する心理療法への誘い	沢宮容子、若島孔文、ウィリアム・グラッサー [※]
2007	学生企画講演会	すべての子どもが輝く教育	品川裕香 [※]
	平成20年度公開講座	家庭・学校・職場で活かすカウンセリング	榆木満生、村瀬晃、塚野州一
2008	平成21年度公開講座	こころの時代に活かせる支援	中田洋二郎、小澤康司、西松能子
	平成22年度公開講座	地域・暮らし・家庭の人間関係を考える	高橋尚也、上瀬由美子、米田弘枝
2010	平成23年度公開講座	現代社会における人と人とのつながりとこころの支援	小澤康司、川名好裕、永井智
	設立10周年記念講演	心理臨床における動作のこころ—その意義と援助の実践—	鶴光代 [※]
2011	設立10周年記念コンサート	いやしのコンサート	木村弓 [※] 、中川俊郎 [※]
	平成24年度公開講座	社会と自分をつみつめる心理学—信じるこころこころの声—	西田公昭、沼初枝
2012	平成25年度公開講座	現代をポジティブに生きる心理学	所正文、田中輝美
2013	平成26年度公開講座	“きずな”の心理学—助け合いとこころの幸福—	藤森立男、永井智
2014	平成27年度公開講座	生活の場での消費者心理学	高橋尚也、八木善彦、西田公昭、有賀敦紀
	平成28年度公開講座	魅かれあうこころの不思議—愛と愛でないもの—	川名好裕、米田弘枝、大坊郁夫 [※] 、桐生正幸 [※]
2015	設立15周年記念講演	立正大学の心理臨床15年—社会貢献のこころを育む—	片岡玲子 [※]
	平成29年度公開講座	これからのメンタルヘルス	奥野誠一、高比良美詠子
2016	平成30年度公開講座	ストレスとの付き合い方	清水貴裕 [※] 、田村英恵
2017	令和元年度公開講座	愛と正義と暴力と:過激主義の社会心理学	西田公昭、松井豊 [※] 、縄田健悟 [※] 、唐沢穰 [※]
	※コロナ禍のため公開講座等の開催見合わせ		
2018	令和2年度公開講座	コロナ禍のメンタルヘルスを考える	湯野貴子 [※] 、沼初枝
	令和3年度公開講座	—心的トラウマとしてのコロナ—	

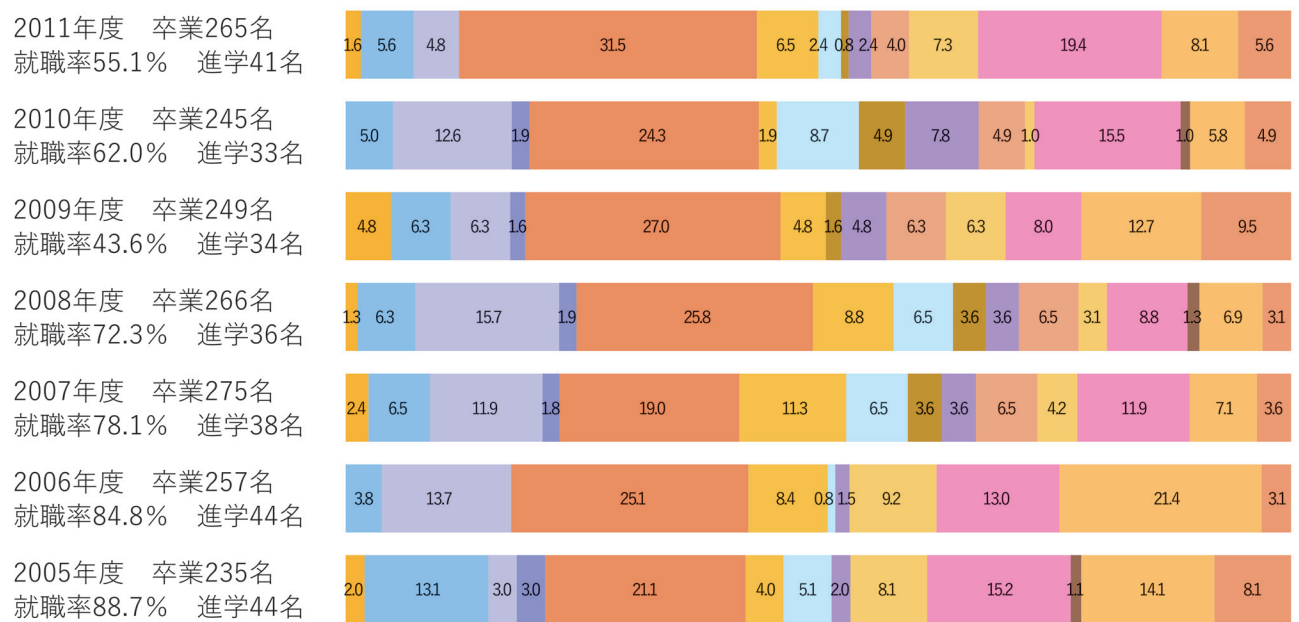
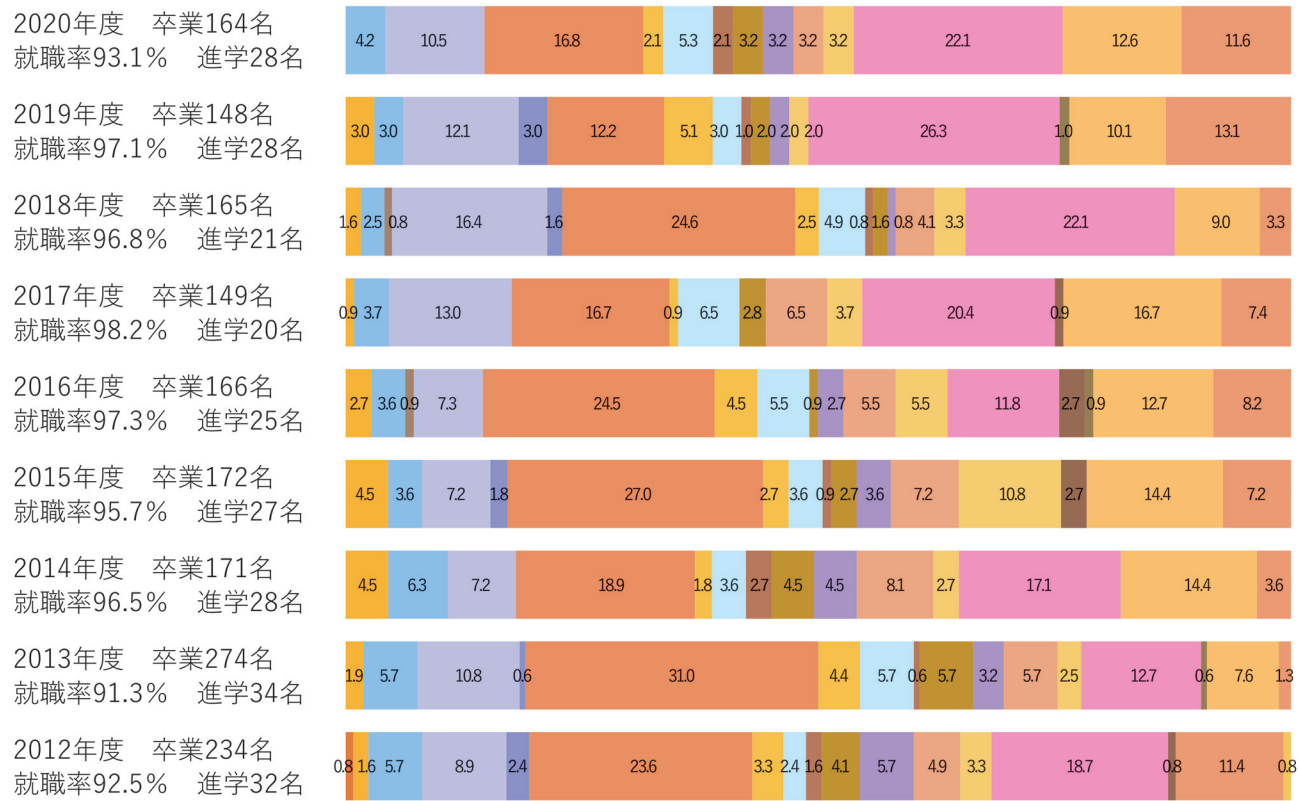
※は学外講師



これまでとこれから 2002年—2022年

臨床心理学科卒業生の業種別就職先

グラフの数値は就職者全体に対する%



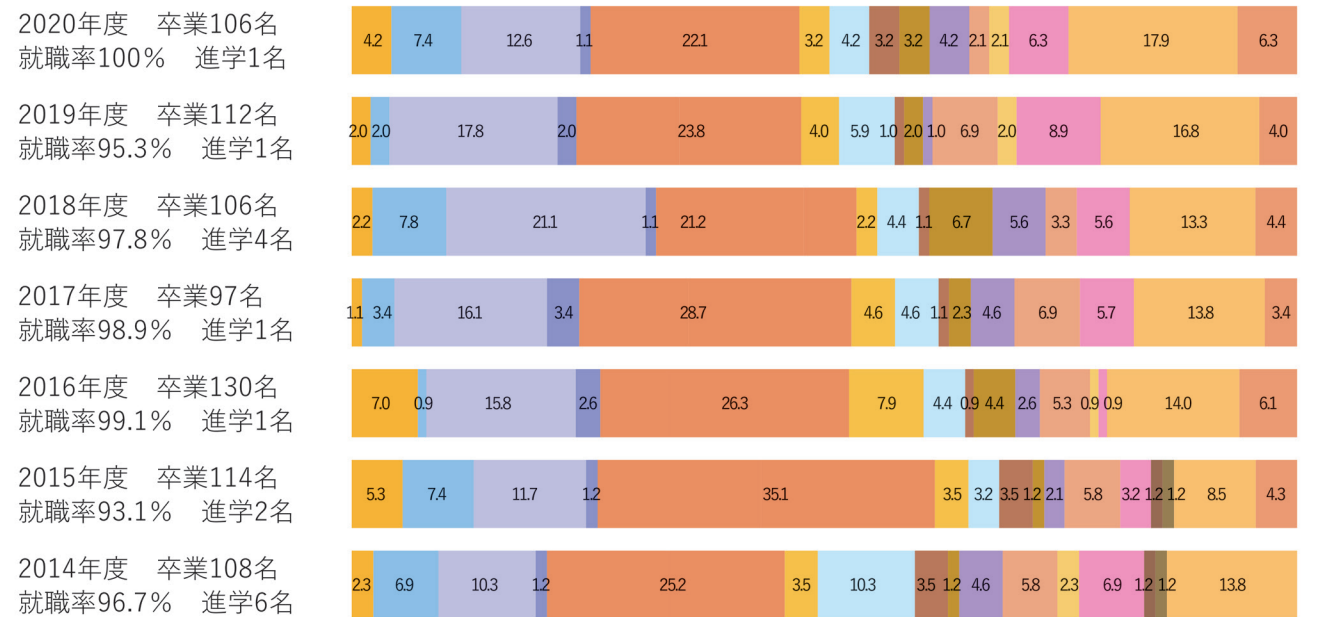
卒業生よりキャリアサポートセンターに提出された進路報告書を日本産業分類に基づいて集計
就職率…2005年～2011年は3年次、2012年以降は卒業時の就職希望者に対する就職者の割合

社会とのつながり

卒業生の進路

対人・社会心理学科卒業生の業種別就職先

グラフの数値は就職者全体に対する%



20年で4,493名の卒業生を輩出

臨床心理学科では、第1期生が卒業した2005(平成17)年度から2021(令和3)年度まで総計3,597名の卒業生を輩出している。特に2012年度からは、就職率が90%を超えるという高い水準を維持しており、業種としては特に卸売業・小売業や医療・福祉業が多い。また、心理職の資格取得を目指して大学院へ進学する割合も高く、およそ2割程度の学生が大学院へ進学している。

2011(平成23)年に開設された対人・社会心理学科は、第1期生が卒業した2014(平成26)年度より2021(令和3)年度まで総計896名の卒業生を輩出している。当初より就職率は極めて高く、2015(平成27)年度を除いて95%を超えている。業種としては、特に卸売業・小売業、情報通信業、その他サービス業(人材サービスなど)が多い。

心理学部では、心理学の学びを職業選択に活かす方法について学修する必修科目の開講や、就職希望者向けの就職ガイダンスと進学希望者向けの進学ガイダンスの開催など、独自のキャリアサポートを行なっている。各学科とも学びの特性を活かした進路先が選択されており、高い就職率と進学率を誇っている。

業種凡例

- 鉱業・採石業・砂利採取業
- 農林・建設業
- 製造業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
- 情報通信業
- 運輸・郵便業
- 卸売業・小売業
- 金融・保険業
- 不動産取引・賃貸・管理業
- 物品賃貸業
- 学術研究・専門・技術サービス業
- 宿泊業・飲食サービス業
- 生活関連サービス業・娯楽業
- 教育・学習支援業
- 医療・福祉業
- 複合サービス事業
- 宗教
- その他サービス業
- 公務
- 上記以外



これまでとこれから 2002年—2022年

20周年記念ロゴマーク 表紙デザイン



梅原真(うめばら まこと)

高知市生まれ。「土地の力を引き出すデザイン」をテーマに活動。柚子しかない村の「ぼん酢しょうゆ・ゆずの村」。かつおを藁で焼く「一本釣り・藁焼きたたき」。荒れ果てた栗山の「しまんと地栗」。流域の農業をブランディングする「しまんと流域農業」。砂浜しかない町の巨大ミュージアム「砂浜美術館」。島根県・離島・海士町「ないものはない」のプロデュースなど。武蔵野美術大学客員教授。

デザインは大きなコミュニケーションを生み出します。事象の本質をとらえ可視化することがデザインです。そこに「笑い」があれば人はより楽しくなります。常々「デザインは心理学」だと思っています。

立正大学心理学部20周年記念誌

発行日 2022(令和4)年3月31日発行

発行者 立正大学心理学部
東京都品川区大崎4丁目2番16号

編集者 立正大学心理学部20周年記念誌委員

委員長	上瀬由美子	教授
委員	高橋 尚也	教授
委員	田村 英恵	教授
委員	八木 善彦	教授
委員	奥野 誠一	准教授
委員	佐藤 秀行	准教授
委員	吉田加代子	准教授
総務	三浦 明美	事務長

印刷 株式会社イーフォー

